

ESMPRO/ServerManager 拡張機能概要

2026 年 1 月 19 日

日本電気株式会社

目次

商標について	3
ご注意	3
1. まえがき	4
2. 課題と解決	5
3. 拡張機能の概要	6
3.1 [まとめて設定]機能 - 複数の機器の設定・管理ソフトウェアを一括設定 -	6
3.2 イベントトリガーアクション機能 - 迅速な障害情報の通知/共有 -	8
3.3 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能 - サーバの稼働状況を診断 -	9
4. 拡張機能利用に必要な準備	11
4.1 拡張機能の製品体系	11
4.2 拡張機能の導入の流れ	12
4.2.1 (1) ESMPRO/ServerManager Ver.7 をインストールする	12
4.2.2 (2) 各機能に必要なソフトウェアをインストールする	13
4.2.3 (3) ESMPRO/ServerManager Ver.7 にサーバを登録する	14
4.2.4 (4) ESMPRO/ServerManager Ver.7 に拡張機能ライセンスを登録する	15
5. 拡張機能利用手順	16
5.1 [まとめて設定]	16
5.1.1 例① サーバの設定を一括で変更する	16
5.1.2 例② サーバの設定済みの設定を他サーバの設定に反映する	23
5.1.3 例③ 無停電電源装置 UPS の設定を一括で変更する	30
5.2 イベントトリガーアクション	36
5.2.1 例① ESMPRO/ServerManager が受信したアラートをメール通報する	36
5.2.2 例② ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを Microsoft Teams 通報する	40
5.2.3 例③ ESMPRO/ServerManager に特定の監視対象サーバから、特定のアラートを受信した場合に、任意のスクリプトを実行する。	44
5.3 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス	57
5.3.1 例① 1 か月分のサーバ診断カルテを作成する	57
6. 便利な使い方	72
7. 改版履歴	73

商標について

EXPRESSBUILDER と ESMPRO、WebSAM は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries.

The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

記載の会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

なお、特に TM、®は明記しておりません。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- 運用した結果の影響については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 各ソフトウェアのバージョンは 2026 年 1 月 7 日現在のものです。

1. まえがき

本書は Express5800 サーバ標準添付 ESMPRO/ServerManager Ver.7 に有償提供される拡張機能の概要について記載したドキュメントです。サーバ管理者は拡張機能を利用することで Express5800 サーバの管理を効率化を行うことが可能になります。本書をご利用頂くことで拡張機能(ESMPRO/ServerManager 拡張ライセンス)のご理解のお手伝いになれば幸いです。

ソフトウェア	バージョン
ESMPRO Platform Management kit(*1)(*2)(*3)	1.008.01
ESMPRO/ServerManager(*4)	7.30

(*1)拡張機能を利用する為には ESMPRO Platform Management Kit からライセンス解除が必要です(4.2.4 (4) ESMPRO/ServerManager Ver.7 に拡張機能ライセンスを登録する参照)。

(*2)ESMPRO Platform Management Kit には ESMPRO/AutomaticRunningController、WebSAM AlertManager、WebSAM iStorageManager が同梱されており、統合インストーラを利用することで、一括してインストールが可能です。各製品を利用するには各製品の利用ライセンスの購入が必要です。

(*3)2026 年 1 月時点の最新版は 「UL1599-601 ESMPRO Platform Management Kit V1.008(媒体)」です。製品の最新情報は NEC サイト(https://jpn.nec.com/esmsm/kakaku.html?#tag_kit)を参照してください。

また ESMPRO Platform Management Kit は無償版も公開されており、

NEC サイト(<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>)からダウンロードすることもできます。

(*4)ESMPRO/ServerManager は ESMPRO Platform Management Kit に含まれています。ただし、最新化の為に個別ダウンロード(本書の 4.2.1 (1) ESMPRO/ServerManager Ver.7 をインストールする参照)し、アップデートすることをお勧めします。

2. 課題と解決

サーバのライフサイクルを考えると

① 調達→②導入(設定)→③運用・保守→④廃棄

という流れになり、サーバ管理の視点では②導入(設定)③運用・保守が主な作業となります。

②導入(設定)は多くの場合、

(ア) 通常複数台サーバを設定することになる。

(イ) 個々のサーバに類似した設定を実施する必要がある。

となり、導入するサーバ台数・設定項目数が増えるだけ対応工数が増大する為、スクリプト等による設定の自動化が必要とされます。

③運用・保守ではサーバのヘルス状態を常時確認することで、業務停止時間を最小限に抑える必要があり、運用/保守チームへの迅速な情報通知/チーム内での情報共有がダウンタイム最小化のキーとなります。

ESMPRO/ServerManager ver.7 の拡張機能では、②導入(設定)の効率化に向けて[まとめて設定](*)を提供しています。本機能にて、事前に用意した簡単な XML ファイルで複数台のサーバに設定を行うことが可能となります。また、XML の一部を変更することで、類似した設定の他サーバへの展開も可能です。本機能を利用することで管理者はネットワーク経由で複数台サーバに設定、類似した設定の他サーバへの展開が可能となり、システム導入(設定)の効率化を行えます。

③運用・保守の効率化に向けては「イベントトリガーアクション機能」、「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能」を提供しています。

「イベントトリガーアクション機能」では、サーバで発生したイベントを契機に電子メール送信・Microsoft Teams への投稿が可能です。障害イベントが発生した場合に、運用/保守チームの電子メールや Teams の共有チャンネルへ投稿を行うことで情報共有がリアルタイムに行え、迅速な対応が可能となります。

「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能」では、蓄積したサーバのログから、状況を確認したい期間のサーバ診断カルテ (PDF 形式) (*)を随時作成することが可能です。サーバ診断カルテではディスク使用率、OS 更新プログラムの適用状態、サーバの稼働状況に応じた総合診断コメントなどを簡単に確認でき、早期対策の実施や、リソース/セキュリティ管理などの IT システムの運用管理に活用いただけます。

(*)本ガイドでは、まとめて設定機能を[まとめて設定]と記載します。

(*)本ガイドでは、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能で提供されるレポートをサーバ診断カルテと記載します。

3. 拡張機能の概要

以下の拡張機能の概要について説明します。

1. [まとめて設定]機能
2. イベントトリガーアクション機能
3. クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能

3.1 [まとめて設定]機能 - 複数の機器の設定・管理ソフトウェアを一括設定 -

本機能ではあらかじめ作成した XML 形式のファイルを ESMPRO/ServerManager ver.7 から各サーバに配布することで、各種設定を行います。また、現状の設定を XML 形式のファイルで吸い上げることも可能であり、必要な箇所だけを簡単に変更することもできます。標準的な XML 形式のファイルのひな形は ESMPRO の Web サイト(<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html?#template>)で公開しています。



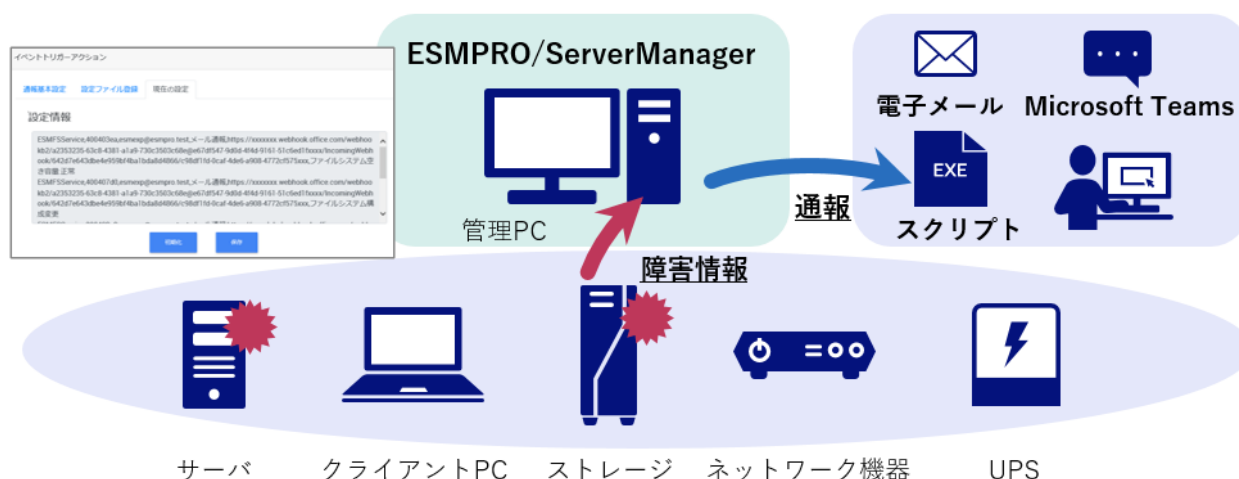
2026 年 1 月現在、以下の設定を ESMPRO/ServerManager から XML 形式のファイルで実行できます。
詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]を使用して管理対象の設定を行う」を参照してください。

設定対象	主な設定項目
ESMPRO/ServerAgentService(Windows)Ver2.3～(*1) ESMPRO/ServerAgent(Windows) Ver4.6f～(*1)	通報手段(TCP/IP、SNMP、CIM-Indication) 通報先(通報先のホスト名/IP アドレス/ポート番号) 通報対象イベントログ
ESMPRO/ServerAgentService(Windows) Ver1.0～(*1) ESMPRO/ServerAgentService(Linux) Ver1.0～(*1)	CPU 負荷監視(有効/無効、しきい値、等) メモリ使用量監視(有効/無効、しきい値、等) (*2) ファイルシステム空き容量監視 S,M,A,R,T 監視(有効/無効)
ESMPRO/AutomaticRunningController Ver.5.41～(*3)	通信設定(端末(サーバ)の MAC アドレス/IP アドレス/ネットマスク/SNMP/MagicPacket WakeUp の設定 等) 統計情報(出力電圧、入力電圧等)の収集間隔 端末(サーバ)情報(停電時のシャットダウン開始待ち時間 等) 仮想マシン設定(起動・停止時の順序の設定、シャットダウン開始待ち時間 等)
無停電電源装置(UPS) (ESMPRO/AutomaticRunningController Ver.5.41～(*3) 経由で設定)	停電発生時から稼働できる時間 出力電圧の異常・警告 を判別する閾値 温度が異常・警告を判別する閾値 異常発生時のブザーを鳴らす条件 等

- (*1)ESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerAgentService はサーバに添付している EXPRESSBUILDER から、もしくは、Web サイト(https://jpn.nec.com/esmsm/download.html?#sm_ver7)から入手してください。
- (*2)メモリ使用量監視の設定は ESMPRO/ServerAgentService(Windows) Ver1.2～となります。
- (*3)ESMPRO/AutomaticRunningController の設定を行う為には ESMPRO Platform Management kit(UL1599-301)に同梱されている ESMPRO/AutomaticRunningController もしくは、
UL1046-P01 ESMPRO/AutomaticRunningController が ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバにインストールされており、ESMPRO/AutomaticRunningController のライセンスが有効化されている必要があります。

3.2 イベントトリガーアクション機能 - 迅速な障害情報の通知/共有 -

本機能で指定した OS イベントログ登録、ESMPRO が HW イベントを検出したことを契機に、あらかじめ設定した通知先へ電子メールによる通知、Microsoft Teams の指定チャネルへ通知を行えます。また通知機能以外にも、特定の HW イベントに対応して、任意のスクリプトを実行することも可能です。(*1)(*2)



通知対象となるイベントの指定や通知先の指定等は予め作成した CSV 形式のファイルを ESMPRO/ServerManager にアップロードすることで、一括設定することが可能です。また、設定ファイルのサンプルは<ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダ¥ESMSM¥tool>に格納されていますのでご利用下さい。

詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ」を参照してください。

(*1)機能を利用する為には ESMPRO Platform Management kit(UL1599-601)に同梱されている WebSAM AlertManager もしくは UL1032-D03 WebSAM AlertManager Ver4.3 が ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバにインストールされている必要があります。

(*2)ESMPRO Platform Management kit(UL1599-601)に同梱されている WebSAM AlertManager のイベントトリガーアクション以外の機能を利用する為には、別途 UL1032-G05 WebSAM AlertManager Ver4.4 ライセンス(ESMPRO Platform Management Kit 用)にてライセンスの有効化が必要です。

3.3 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能 - サーバの稼働状況を診断 -

インターネット非接続環境で運用されるサーバのログを収集/分析し、稼働状況に応じた診断コメント付きのサーバ診断カルテを提供します。



■ 特長

- ・ ESMPRO/ServerManager でアップロード専用ファイルを作成し、NEC サイト上でカルテ作成
- ・ インターネット非接続サーバのカルテを作成可能
- ・ 状況確認したい期間のカルテを随時作成可能
- ・ 複数台サーバのカルテを一括作成可能
- ・ PDF 以外にも CSV でもデータを提供。 任意の期間のグラフなどのデータも作成可能

■ 使用方法の概要

ESMPRO/ServerManager でサーバからカルテ作成に必要なデータを取得し ESMPRO/ServerManager 上に蓄積させます。データ蓄積後、カルテ作成を行うサーバやカルテ作成対象期間などを指定し、アップロード専用ファイルを作成します。

お客様が手動でアップロード専用ファイルを NEC サイトにアップロード後、サーバ診断カルテが作成されます(*2)。カルテ作成完了時にお客様に送信される完了通知メール(*3)に記載される NEC サイトの URL より、サーバ診断カルテファイル(*4)をダウンロードします(*5)。サーバ診断カルテファイルを解凍し、サーバ診断カルテを確認します。

(*1)暗号化されたファイルが作成されます。

(*2)通常 24 時間以内に作成されます。

(*3)ESMPRO/ServerManager 上で通知先のメールアドレスを設定します。

(*4)作成されたサーバ診断カルテがまとめて格納されている ZIP 形式のファイル。

(*5)ダウンロード可能期間は 1 週間です。

■ 主な表示内容

本機能で作成されるサーバ診断カルテの主な表示内容は以下の通りです。

- | | | |
|--------------|------------|---------------|
| ● CPU 使用率 | ● メモリ使用率 | ● ディスク使用率、I/O |
| ● ハードウェア構成情報 | ● 温度 | ● ネットワーク通信状況 |
| ● ソフトウェア構成情報 | ● 適用ドライバ情報 | ● 更新プログラム情報 |

利用方法、表示内容の詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド 第20章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ」を参照してください。

※本機能は既存のサーバ診断カルテサービス (<https://jpn.nec.com/pcserver/support/karte.html>) で提供されるサーバ診断カルテと同等の情報を提供します。

■ 使用条件

本機能を使用するには、

- ・ ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンス
- ・ 管理対象機器台数に応じた ESMPRO/ServerManager 拡張機能 ノードライセンス
- ・ ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンスの PP・サポートサービス保守契約
- ・ ESMPRO/ServerManager 拡張機能 ノードライセンスの PP・サポートサービス保守契約
- ・ ESMPRO/ServerManager クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス機能 利用規約への同意

が必要になります。

ライセンスの詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド」を参照してください。

※本機能はサーバ診断カルテサービスと同時に利用することはできません。

■ 主な対象機器

- ・ Express5800/100 シリーズ
- ・ iStorage NS シリーズ

■ 対象 OS

本機能では運用 OS が **Windows、ESXi、ESXi 上の Windows(仮想マシン)**のサーバに対してサーバ診断カルテを作成できます。

本機能の対象サーバは以下サイトの対象機器欄に記載された機種となります。

- ・ **運用 OS が Windows の場合：**
サーバ診断カルテ (Windows 対応版)
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>
- ・ **運用 OS が ESXi、ESXi 上の Windows(仮想マシン)の場合：**
サーバ診断カルテ (VMware ESXi 対応版)
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107805>

4. 拡張機能利用に必要な準備

4.1 拡張機能の製品体系

本機能を利用する為には、拡張機能ライセンスによる有効化(*1)が必要です。

拡張機能ライセンスは ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ向けの

「ESMPRO/ServerManager 拡張機能マネージャライセンス」と、管理対象となるサーバの台数分(*2)の

「ESMPRO/ServerManager 拡張機能ノードライセンス」が必要です。

また、購入後に本機能のサポートを受ける為には、サポートパック/契約保守の購入が必要です。詳細は Web サイト(<https://jpn.nec.com/esmsm/kakaku.html>)を参照してください。

(*1)ライセンスの有効化は全て ESMPRO Platform Management Kit に同梱しているライセンス・バージョン管理ツールから可能です。

(*2)ESMPRO/ServerManager に登録した管理対象サーバ(UPS/ネットワーク機器/その他コンピュータ機器/アラート受信のみ管理の台数は含まない)の台数分のライセンスが必要です。

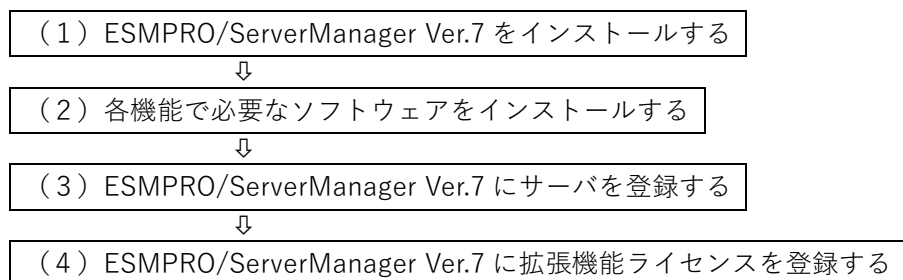
(*)表示価格は税別(円)

型番	品名	希望小売価格	月額標準サポート料金
UL1636-001	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンス	100,000	1,150
UL1636-002	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 1 ノードライセンス	25,000	1,150
UL1636-003	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 5 ノードライセンス	125,000	5,800
UL1636-004	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 20 ノードライセンス	400,000	18,400
UL1636-005	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 無制限ノードライセンス	1,000,000	46,000

ESMPRO/ServerManager Ver.7 の拡張機能は、今後も機能追加を予定していますが、アップデートされたモジュールを Web サイトからダウンロードすることで、追加された機能が無償で利用することができます。アップデート毎に拡張ライセンスを再購入いただく必要はありません。

4.2 拡張機能の導入の流れ

拡張機能の導入は、以下の流れで実施します。



以下、各手順の概要を説明します。

4.2.1 (1) ESMPRO/ServerManager Ver.7 をインストールする

ESMPRO/ServerManager Ver.7 は ESMPRO Platform Management Kit に含まれており、同製品を利用して以下のいずれかの方法でインストールできます。

- ・ ESMPRO Platform Management Kit を使用した統合インストール
- ・ ESMPRO Platform Management Kit を使用した個別インストール



また、ESMPRO/ServerManager Ver.7 は個別でも NEC サイト (<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>) に Web 公開されており、以下の方法でインストールできます。

- ・ 個別に ESMPRO/ServerManager Ver.7 をダウンロードしインストール

インストール手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド 2 章インストール」を参照してください。

4.2.2 (2) 各機能に必要なソフトウェアをインストールする

利用する機能に応じて、ESMPRO/ServerManager と同じ装置もしくは管理対象機器にソフトウェアのインストールが必要となります。ご利用になる機能に合わせてインストールを行ってください。

機能	対象	必要なソフトウェア	備考
[まとめて設定]	AC Management Console で電源管理設定を行った Express サーバや無停電装置 (UPS) を設定する場合	ESMPRO/ServerManager と同じ装置に ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.41 以降および、ESMPRO/AC Enterprise Ver5.41 以降が必要	(*3)
	管理対象機器の ESMPRO/ServerAgentService(Windows) や ESMPRO/ServerAgent(Windows) の通報設定を行う場合	管理対象機器に ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent の通報モジュール (アラートマネージャ) Ver6.03 以降が必要	(*4)
イベントトリガーアクション	メール通報、Microsoft Teams 通報を行う場合	ESMPRO/ServerManager と同じ装置に WebSAM AlertManager Ver4.3 以降が必要 (*1)(*2)	(*5)
クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス	Windows サーバのサーバ診断カルテを作成する場合	管理対象機器に「サーバ診断カルテ (Windows 対応版)」および ESMPRO/ServerAgentService Ver.2.0 以降が必要	(*6)
	VMware ESXi サーバ、VMware ESXi サーバ上の Windows(仮想マシン)のサーバ診断カルテを作成する場合	ESMPRO/ServerManager と同じ装置に「サーバ診断カルテ (VMware ESXi 対応版)」が必要。 管理対象機器 (仮想マシン) に「サーバ診断カルテ for GuestOS」が必要。	(*7)

(*1) WebSAM AlertManager のライセンスは不要です。

(*2) メール通報を使用するには、別途、SMTP プロトコルに対応するメールサーバが必要です。

(*3) インストールについては、ESMPRO/AutomaticRunningController、ESMPRO/AC Enterprise のセットアップカードを参照してください。

(*4) 通報モジュール (アラートマネージャ) のアップデートについては、以下のサイトを参照してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102682>

(*5) インストールについては「WebSAM AlertManager セットアップカード」を参照してください。

(*6) インストールについては「サーバ診断カルテ セットアップガイド(Windows 編)」を参照してください。

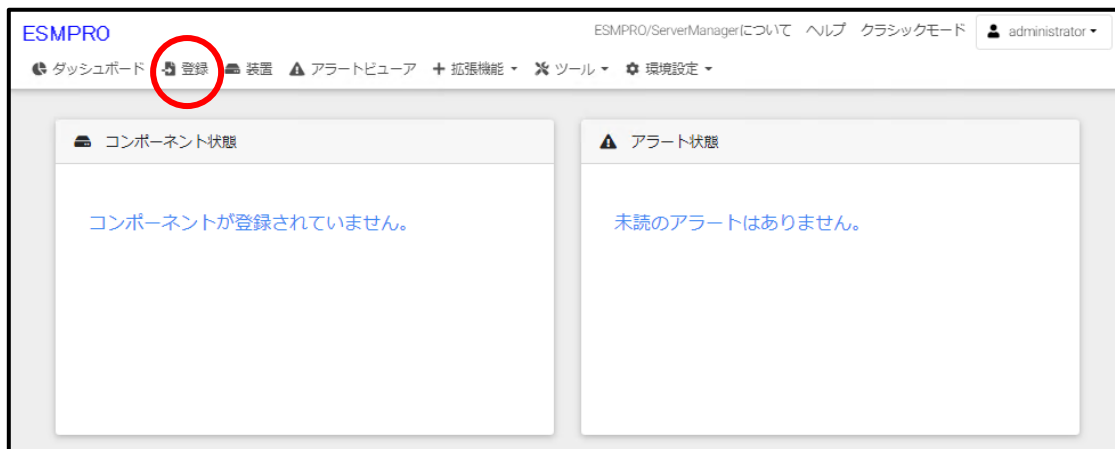
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

(*7) インストールについては「サーバ診断カルテ セットアップガイド(VMware ESXi 編)」を参照してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107805>

4.2.3 (3) ESMPRO/ServerManager Ver.7 にサーバを登録する

拡張機能の対象となる管理対象サーバを ESMPRO/ServerManager Ver.7 に登録します。



ESMPRO/ServerManager に管理対象サーバを登録するには、自動登録と手動登録の 2 通りの方法があります。

- 自動登録は IP アドレスの範囲またはネットワークアドレスを指定して、見つかった管理対象サーバを自動的に登録する方法です。
- 手動登録はコンポーネント名、OS IP アドレス等の項目を全て手動で設定して管理対象サーバを登録する方法です。

登録方法の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド」を参照してください。

4.2.4 (4) ESMPRO/ServerManager Ver.7 に拡張機能ライセンスを登録する

ESMPRO/ServerManager Ver.7 への拡張機能ライセンスの登録は ESMPRO Platform Management Kit に同梱されているライセンス・バージョン管理ツールから行います。

ライセンス・バージョン管理			
xxxxxx			
セッション切断			
機能	製品名	バージョン	ライセンス
サーバ管理	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャ ライセンス	xx	<input type="text"/> <input type="button" value="インポート"/> <input type="button" value="エクスポート"/>
	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 ノードライ センス	xx	<input type="text"/> <input type="button" value="インポート"/> <input type="button" value="エクスポート"/> 登録可能台数: 0
	WebSAM iStorageManager	xx	<input type="text"/> <input type="button" value="ライセンスの適用"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>

ライセンス・バージョン管理ツールは以下のいずれかの方法でインストールできます。

- ESMPRO Platform Management Kit の統合インストールメニューから ESMPRO/ServerManager 等のソフトウェアをインストールすると自動的にインストールされます。
- ESMPRO Platform Management Kit の各種アプリケーションメニューから個別にインストールします。

ライセンス・バージョン管理ツールのインストールや起動方法などの詳細については「ESMPRO インストールツール ユーザーズガイド」を参照してください。

ライセンス・バージョン管理ツールのインストール後、ライセンス・バージョン管理画面を起動し、ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンスキーおよび、管理対象サーバ台数に応じた ESMPRO/ServerManager 拡張機能 ノードライセンスキーを登録します。

拡張機能ライセンスの登録手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 インストレーションガイド 1 章概要 4.1 インポート手順」を参照してください。

5. 拡張機能利用手順

[まとめて設定]とイベントトリガーアクションの利用手順についての概要を説明します。詳細な説明や操作については、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド」を参照してください。

5.1 [まとめて設定]

[まとめて設定]の利用方法として、以下の例について例示します。

例① サーバの設定を一括で変更する

例② サーバの設定済みの設定を他サーバの設定に反映する

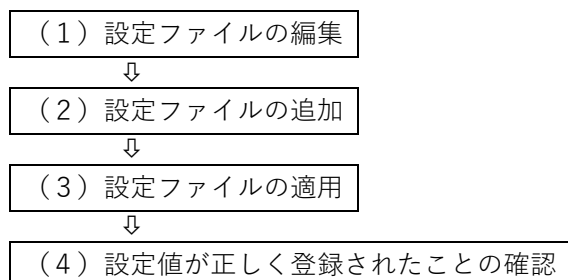
例③ 無停電電源装置 UPS の設定を一括で変更する

概要を以下に説明します。

5.1.1 例① サーバの設定を一括で変更する

ESMPRO/ServerAgentService(Windows)のリソース監視設定を設定ファイルで一括変更する

ここでは例として新規に設定ファイルを作成し、設定ファイルを使用して一括で変更する手順を説明します。手順の流れは以下のとおりです。



(1) 設定ファイルの編集

ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダに格納されている設定ファイルのサンプルファイルを元に設定ファイルの編集を行います。

サンプルファイルの格納先は以下です。

【格納先】

<ESMPRO/ServerManager インストールフォルダ>%ESMSM%tool

ファイル名：GatherSettingTemplate.XML

※<ESMPRO/ServerManager インストールフォルダ>が不明な場合は、以下のレジストリをご確認ください。

キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\NEC\ESMWEB

バリュー：PathName(REG_SZ)

上記のサンプルファイルを作業用フォルダにコピーし、任意の設定ファイル名に変更します(例：CPUSetting.XML)。

設定ファイルをテキストエディタ等で開き、ESMPRO/ServerAgentService(Windows)のリソース監視設定に該当する箇所を編集します。

例として、コンポーネント名をそれぞれ「Server1」、「Server2」として登録したサーバのESMPRO/ServerAgentServiceのCPU負荷監視の設定変更を行います。

例として各サーバのTotal CPU(CPU全体)の負荷率の監視設定を以下のように設定します。

[要素]

<CPUPerf> - <CPUInfo>

パラメータ名	設定項目	設定値
Index	CPUのIndex。 監視対象のCPUを指定します。 0はTotalの負荷率です。	0: Total CPU 負荷率 (サンプルファイルから変更なし)
Monitoring	CPUの監視有効/無効	1:有効
FatalThreshold	CPU<Index>の異常しきい値(%)	100 (サンプルファイルから変更なし)
FatalReset	CPU<Index>の異常開放値(%)	95
WarningThreshold	CPU<Index>の警告しきい値(%)	90
WarningReset	CPU<Index>の警告開放値(%)	85

各設定項目の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第19章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う「19.4 設定ファイルの編集」を参照してください。

【編集例】

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ESMPRO>
  <!-- Server1 -->
  <Component name="Server1">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <CPUInfo>
          <param name="Index" value="0" />
          <param name="Monitoring" value="1" />
          <param name="FatalThreshold" value="100" />
          <param name="FatalReset" value="95" />
          <param name="WarningThreshold" value="90" />
          <param name="WarningReset" value="85" />
        </CPUInfo>
      </CPUPerf>
    </ESMAgent>
  </Component>

  <!-- Server2 -->
  <Component name="Server2">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <CPUInfo>
          <param name="Index" value="0" />
          <param name="Monitoring" value="1" />
          <param name="FatalThreshold" value="100" />
          <param name="FatalReset" value="95" />
          <param name="WarningThreshold" value="90" />
          <param name="WarningReset" value="85" />
        </CPUInfo>
      </CPUPerf>
    </ESMAgent>
  </Component>
</ESMPRO>
```

（２）設定ファイルの追加

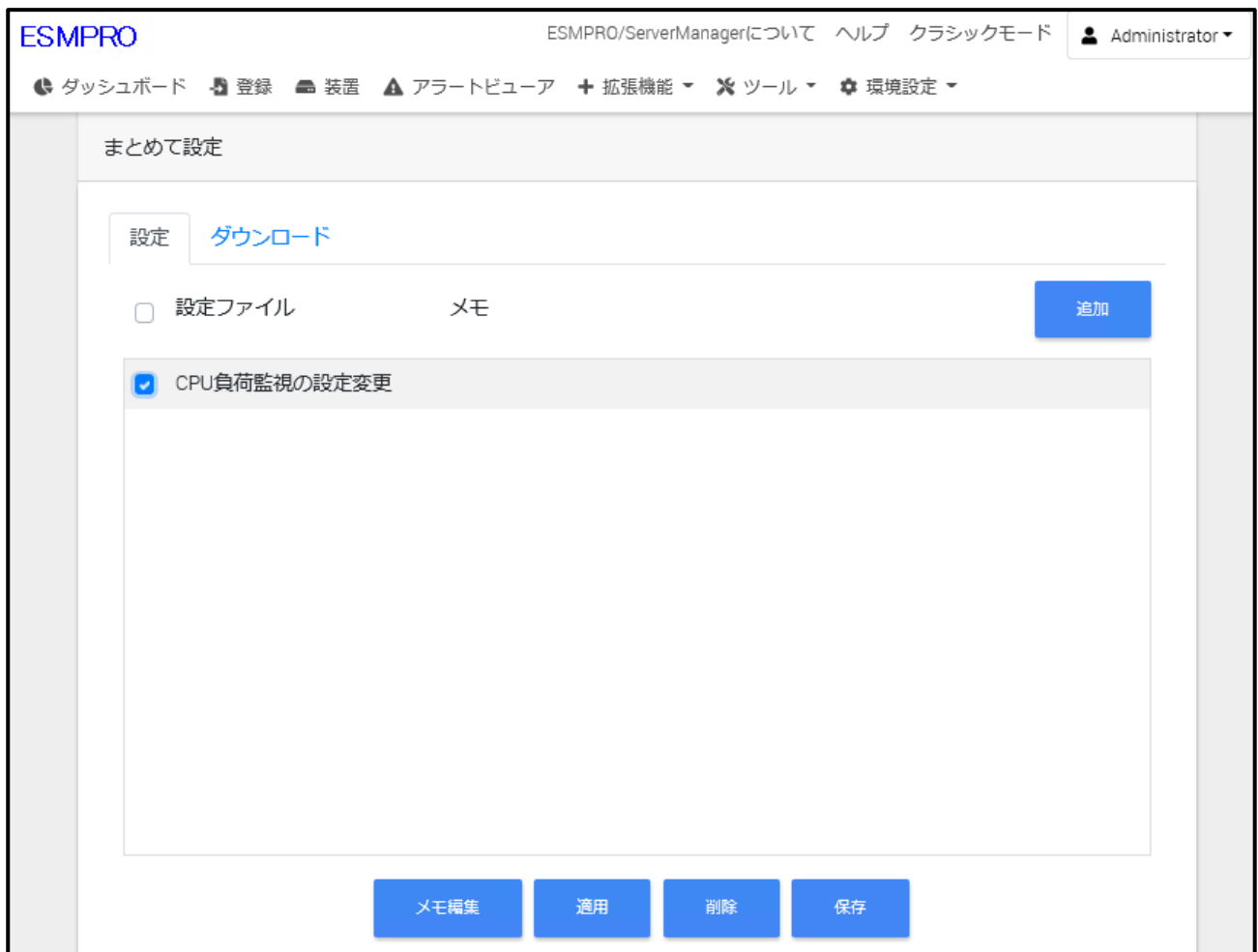
上記手順で編集した設定ファイルを ESMPRO/ServerManager に追加します。

The screenshot shows the ESMPRO/ServerManager web interface. At the top, there is a header bar with the ESMPRO logo, navigation links (ダッシュボード, 登録, 装置, アラートビューア, + 拡張機能, ✕ ツール, 環境設定), and a user profile dropdown (Administrator). Below the header, a sidebar on the left contains the text 'まとめて設定'. The main content area is titled '設定' and 'ダウンロード'. The '設定' tab is active, showing a section titled '設定ファイル追加'. This section contains three input fields: '設定ファイル名 [必須]' with the value 'CPU負荷監視の設定変更', 'メモ' (empty), and '入力ファイル [必須]' with the value 'CPUSetting.XML'. To the right of the '入力ファイル' field is a blue 'アップロード' button. At the bottom of the dialog are two blue buttons: 'OK' and 'キャンセル'.

追加手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う 19.5 設定ファイルの追加」を参照してください。

（３）設定ファイルの適用

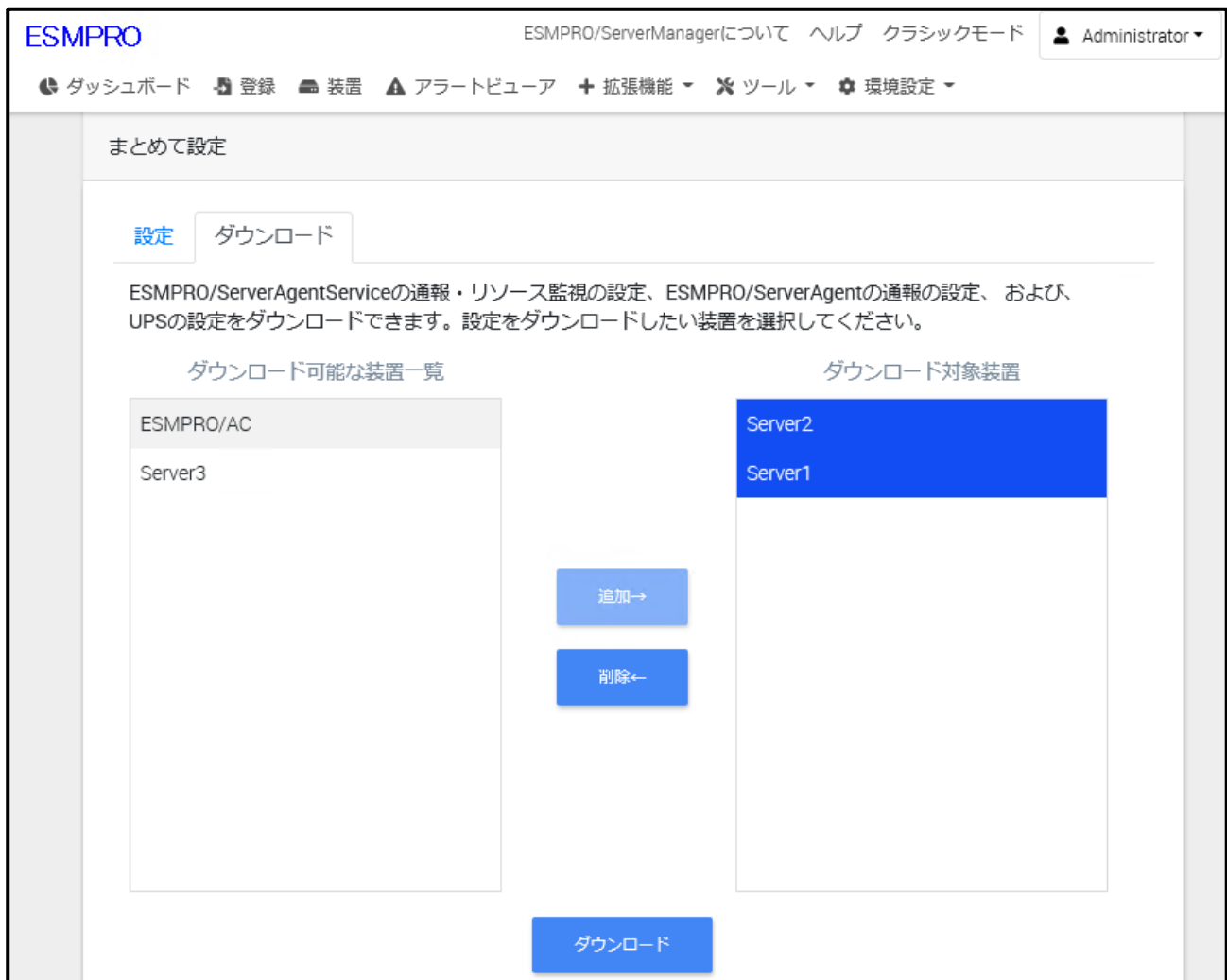
ESMPRO/ServerManager に追加した設定ファイルを[まとめて設定]を行うサーバに適用します。



適用手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う 19.6 設定ファイルの適用」を参照してください。

（４）設定値が正しく登録されたことの確認

適用後、設定が正しく適用されているか確認します。例として、サーバの設定値をダウンロードし、作成した設定ファイルの設定値と比較して正しく適用されているか確認します。



設定ファイルのダウンロード手順の詳細は、「ESM PRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定] を使用して管理対象機器の設定を行う 19.3 設定ファイルのダウンロード」を参照してください。

ダウンロードしたファイルを開き、ESM PRO/ServerAgentService の CPU 負荷監視の設定箇所を確認します。

[Server1]のサーバの設定の該当箇所抜粋

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ESMPRO>
  <Component name="Server1">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <param name="Interval" value="10" />
        <param name="Target" value="60" />
        <CPUInfo>
          <param name="Index" value="0" />
          <param name="Monitoring" value="1" />
          <param name="FatalThreshold" value="100" />
          <param name="FatalReset" value="95" />
          <param name="WarningThreshold" value="90" />
          <param name="WarningReset" value="85" />
        </CPUInfo>
        <CPUInfo>
          <param name="Index" value="1" />
          <param name="Monitoring" value="0" />
          <param name="FatalThreshold" value="100" />
          <param name="FatalReset" value="97" />
          <param name="WarningThreshold" value="95" />
          <param name="WarningReset" value="92" />
        </CPUInfo>
        <CPUInfo>
          <param name="Index" value="2" />
          <param name="Monitoring" value="0" />
          <param name="FatalThreshold" value="100" />
          <param name="FatalReset" value="97" />
          <param name="WarningThreshold" value="95" />
          <param name="WarningReset" value="92" />
        </CPUInfo>
      ...
    
```

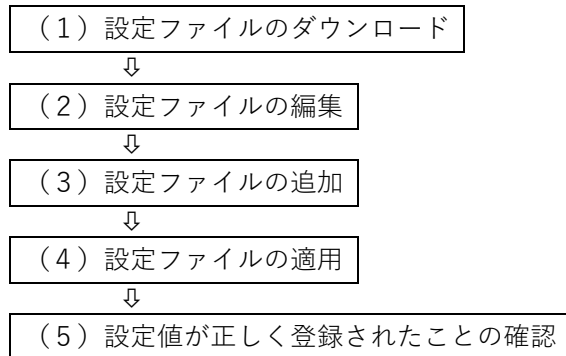
作成した設定ファイルの設定値と同じであることを確認します。上記の例では、赤字で記載した箇所が設定ファイルの設定値と同じであることが確認できます。

5.1.2 例② サーバの設定済みの設定を他サーバの設定に反映する

サーバ A の ESMPRO/ServerAgentService(Windows)のリソース監視設定を、サーバ B、サーバ C の設定に反映する

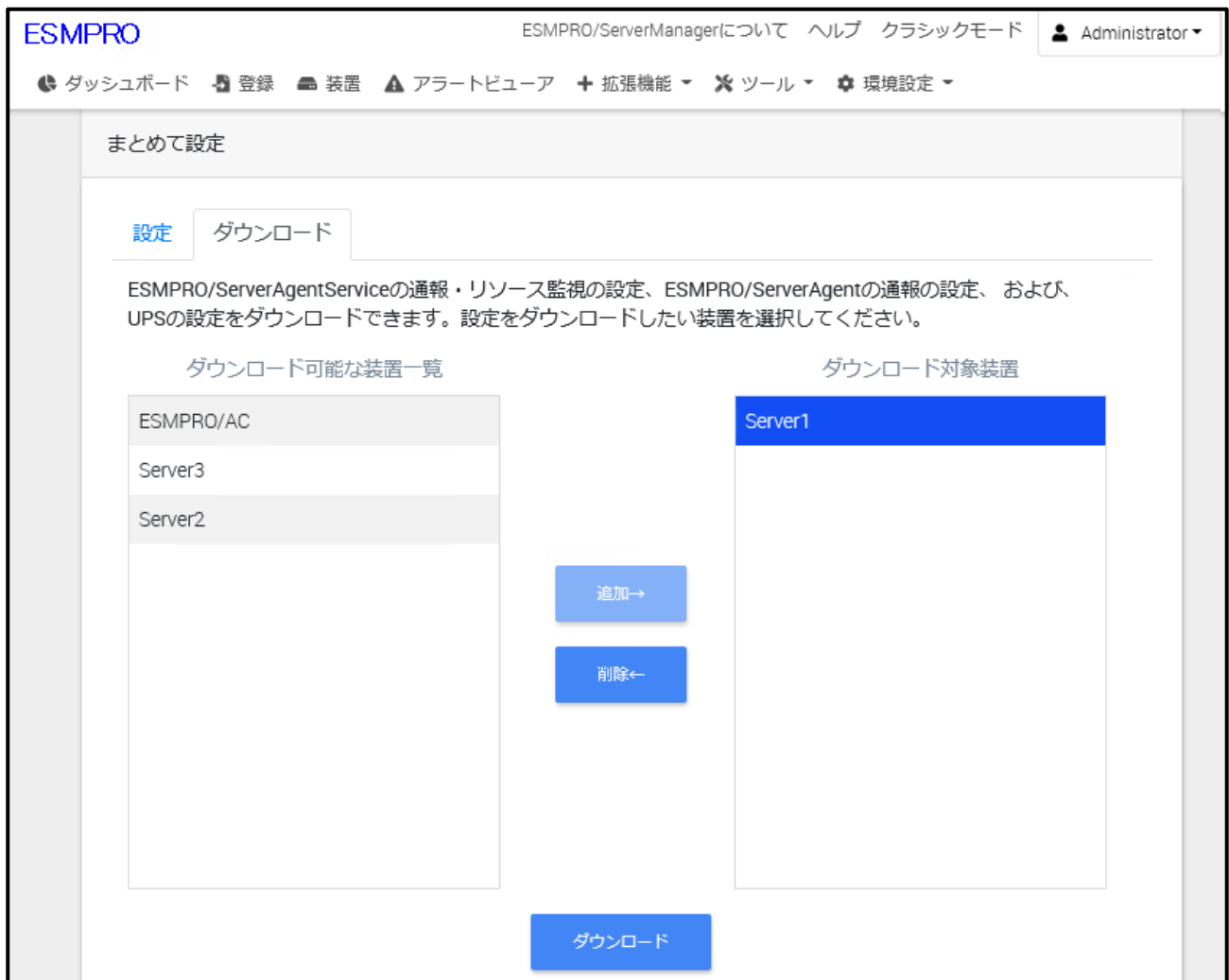
ここでは例として、「Server1」として登録したサーバにインストールされた ESMPRO/ServerAgentService の CPU 負荷監視設定のうち、Total CPU(CPU 全体)の負荷率の設定を「Server2」、「Server3」として登録したサーバの設定に反映する設定を行います。

手順の流れは以下のとおりです。



（１）設定ファイルのダウンロード

[まとめて設定]で「Server1」の設定をダウンロードし、ローカルへ設定ファイルを保存します。



ダウンロード手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第19章 [まとめて設定]を使用して管理対象機器の設定を行う 19.5 設定ファイルのダウンロード」を参照してください。

ダウンロードした設定ファイルを開くと、現在の「Server1」の設定値を確認できます。

ダウンロードした設定ファイルのイメージ

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ESMPRO>
  <Component name="Server1">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <param name="Interval" value="10" />
        <param name="Target" value="60" />
      </CPUPerf>
      <CPUInfo>
        <param name="Index" value="0" />
        <param name="Monitoring" value="1" />
        <param name="FatalThreshold" value="100" />
        <param name="FatalReset" value="95" />
        <param name="WarningThreshold" value="90" />
        <param name="WarningReset" value="85" />
      </CPUInfo>
      <CPUInfo>
        <param name="Index" value="1" />
        <param name="Monitoring" value="0" />
        <param name="FatalThreshold" value="100" />
        <param name="FatalReset" value="97" />
        <param name="WarningThreshold" value="95" />
        <param name="WarningReset" value="92" />
      </CPUInfo>
    ...
```

(2) 設定ファイルの編集

ダウンロードした設定ファイルを作業用フォルダにコピーし、任意の設定ファイル名に変更します(例：CPUSetting123.XML)。

設定ファイルをテキストエディタ等で開き、「Server1」の Total CPU(CPU 全体)の負荷率の設定箇所を抜き出し「Server2」、「Server3」に設定するように編集します。

各設定項目の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う 19.4 設定ファイルの編集」を参照してください。

【編集例】

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ESMPRO>
  <Component name="Server2">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <param name="Interval" value="10" />
        <param name="Target" value="60" />
      <CPUInfo>
        <param name="Index" value="0" />
        <param name="Monitoring" value="1" />
        <param name="FatalThreshold" value="100" />
        <param name="FatalReset" value="95" />
        <param name="WarningThreshold" value="90" />
        <param name="WarningReset" value="85" />
      </CPUInfo>
    </CPUPerf>
  </ESMAgent>
</Component>

  <Component name="Server3">
    <ESMAgent>
      <CPUPerf>
        <param name="Interval" value="10" />
        <param name="Target" value="60" />
      <CPUInfo>
        <param name="Index" value="0" />
        <param name="Monitoring" value="1" />
        <param name="FatalThreshold" value="100" />
        <param name="FatalReset" value="95" />
        <param name="WarningThreshold" value="90" />
        <param name="WarningReset" value="85" />
      </CPUInfo>
    </CPUPerf>
  </ESMAgent>
</Component>
</ESMPRO>
```

（３）設定ファイルの追加

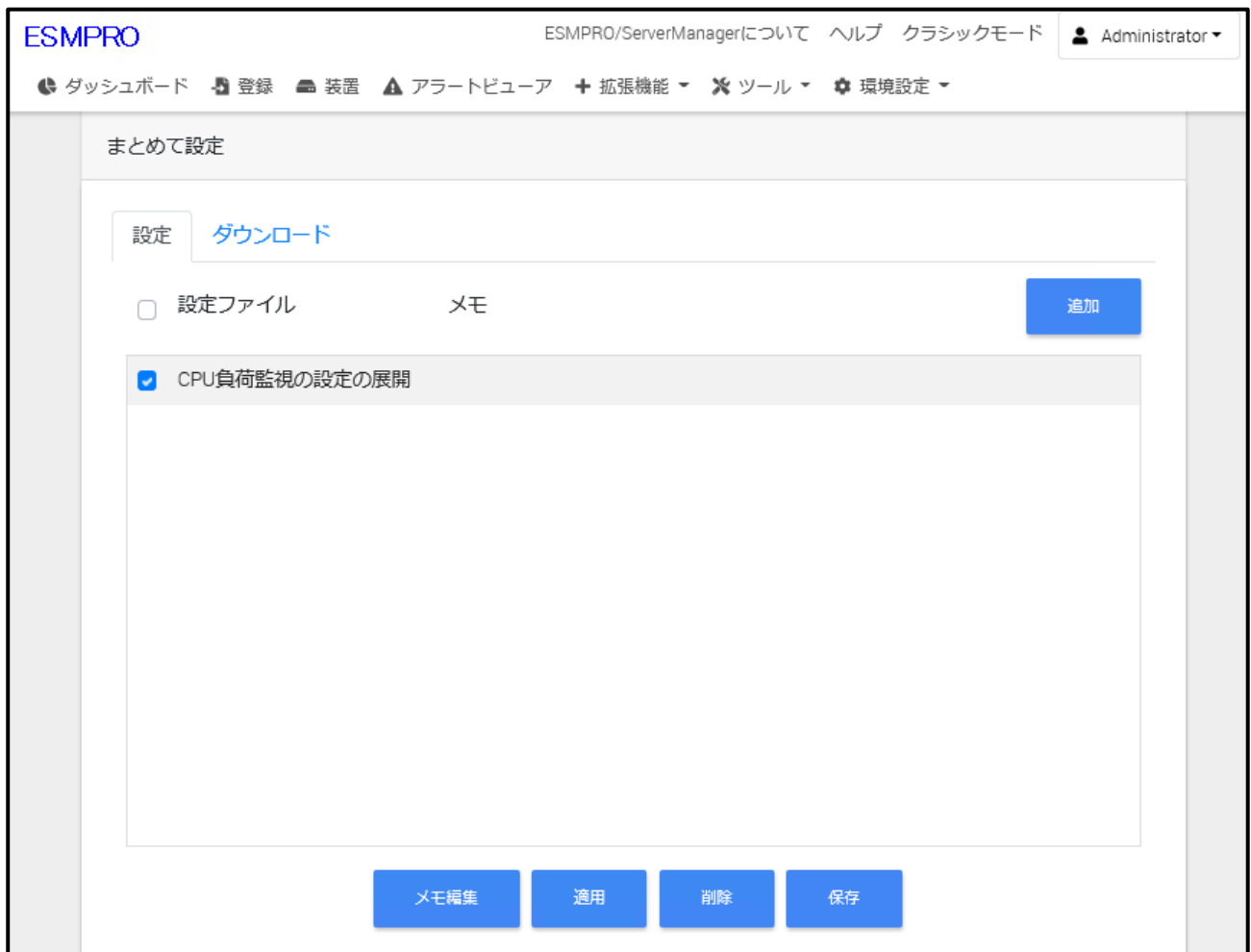
上記手順で編集した設定ファイルを ESMPRO/ServerManager に追加します。

The screenshot shows the ESMPRO/ServerManager web interface. At the top, there is a header with the ESMPRO logo, navigation links (ダッシュボード, 登録, 装置, アラートビューア, 拡張機能, ツール, 環境設定), and a user profile dropdown (Administrator). Below the header is a sidebar with the label 'まとめて設定'. The main content area is titled '設定ファイル追加' (Add Setting File). It contains two tabs: '設定' (Settings) and 'ダウンロード' (Download). Under the '設定' tab, there are three input fields: '設定ファイル名 [必須]' (Setting File Name [Required]) with the value 'CPU負荷監視の設定の展開', 'メモ' (Memo), and '入力ファイル [必須]' (Input File [Required]) with the value 'CPUSetting123.XML'. There is an 'アップロード' (Upload) button next to the input file field. At the bottom of the dialog, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

追加手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う 19.5 設定ファイルの追加」を参照してください。

（４）設定ファイルの適用

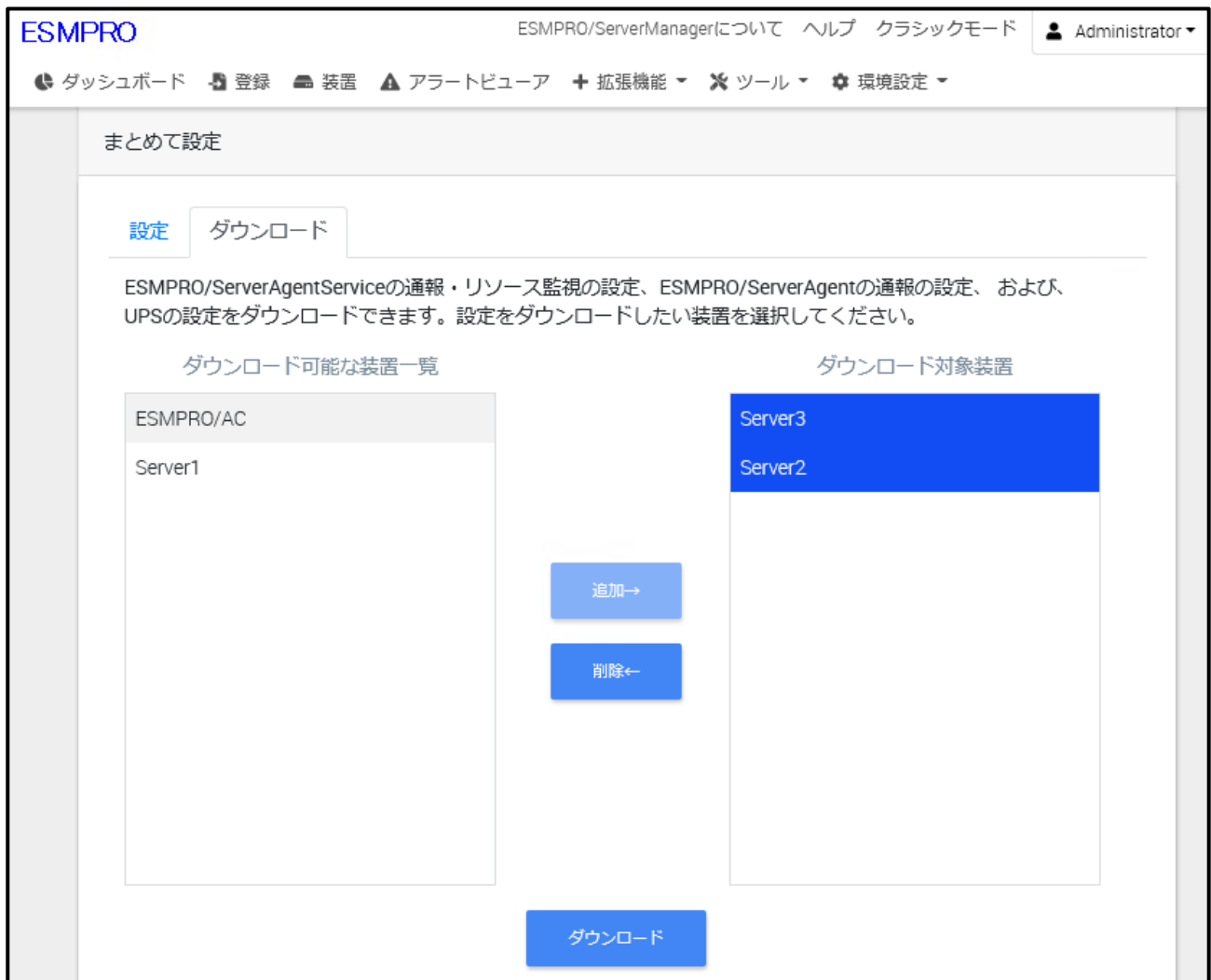
ESMPRO/ServerManager に追加した設定ファイルを[まとめて設定]を行うサーバに適用します。



適用手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]」を使用して管理対象機器の設定を行う 19.6 設定ファイルの適用」を参照してください。

（５）設定値が正しく登録されたことの確認

適用後、設定が正しく適用されているか確認します。例として、サーバの設定値をダウンロードし、作成した設定ファイルの設定値と比較して正しく適用されているか確認します。



設定ファイルのダウンロード手順の詳細は、「ESM PRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 19 章 [まとめて設定]を使用して管理対象機器の設定を行う 19.3 設定ファイルのダウンロード」を参照してください。

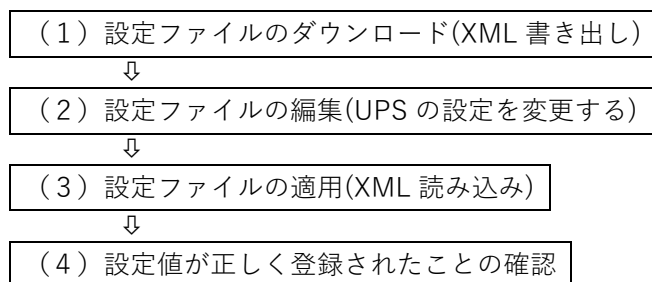
ダウンロードした「Server2」、「Server3」の設定ファイルを開き、各サーバの ESM PRO/ServerAgentService の CPU 負荷監視の設定箇所を確認します。

5.1.3 例③ 無停電電源装置 UPS の設定を一括で変更する

ESMPRO/AutomaticRunningController(Windows) + ESMPRO/AC Enterprise に登録された複数の無停電電源装置 UPS の設定を一括で変更する

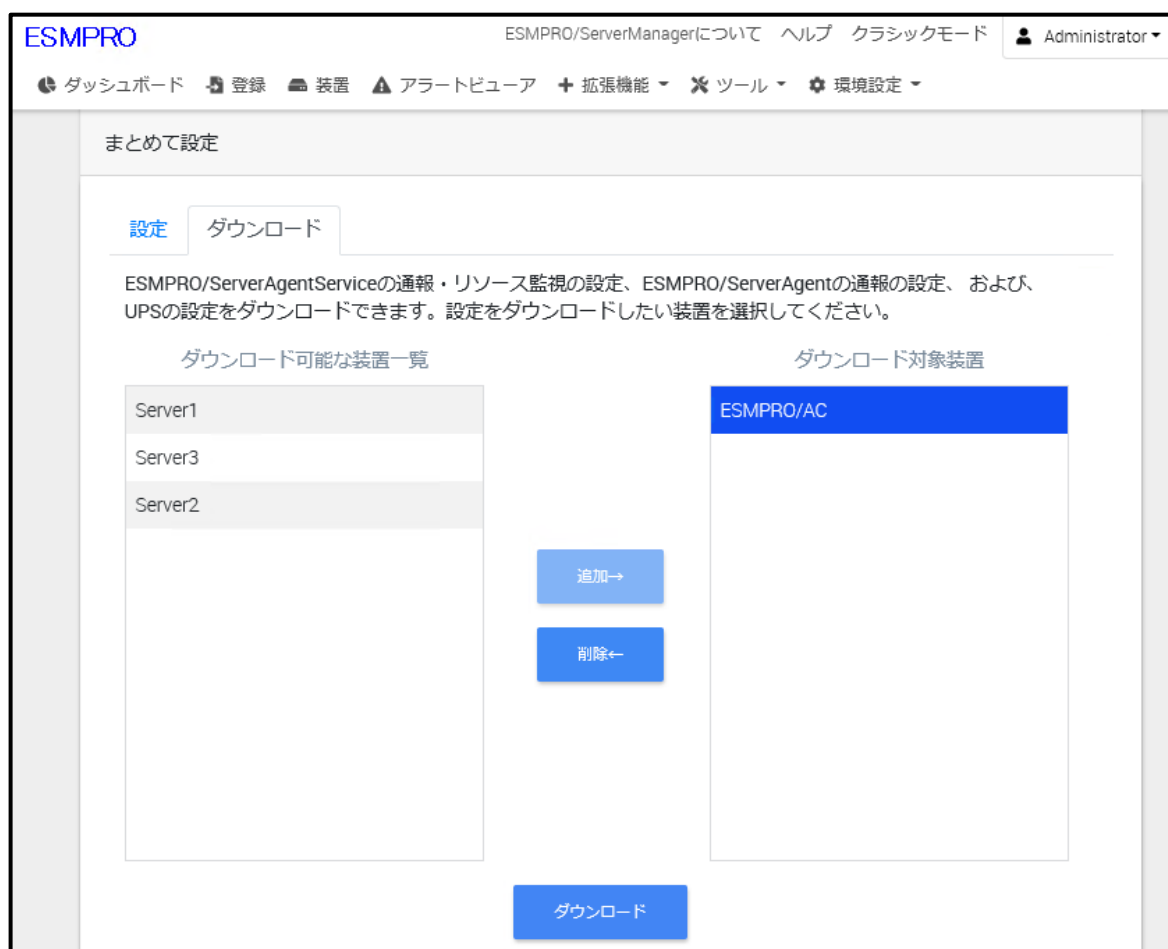
ここでは例として新規に設定ファイルをダウンロードし、設定ファイルを編集して一括で UPS 装置の設定を更新する手順を説明します。手順の流れは以下のとおりです。

なお、電源管理ソフトウェア「ESMPRO/AutomaticRunningController(Windows) + ESMPRO/AC Enterprise(Windows)」は以下で「ESMPRO/AC」に略します



(1) 設定ファイルのダウンロード(XML 書き出し)

ESMPRO/AC の[まとめて設定]の「設定ファイルのダウンロード」は ESMPRO Platform Management Kit 中の「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド」「18.3 設定ファイルのダウンロード」を参照してください。



(2) 設定ファイルの編集(UPS の設定を変更する)

ESMPO/AC の電源管理機能の[まとめて設定]における全タグ情報および要素情報(編集不可の情報を含む)は別資料「ESMPRO Platform Management Kit [まとめて設定]「電源管理 XML 設定一覧」(epmk_ac_xml.pdf)」は、以下の「各種資料」より入手してください。

https://jpn.nec.com/esmpo_ac/ac_download.html

本手順は上記資料の P.7「7. まとめて設定 XML 情報<ESMPRO><ESMPRO_AC><AMC_TREE><UPS> まとめて設定 XML 情報<ESMPRO><ESMPRO_AC><AMC_TREE><InterlockingUPS>」を参照してください。

ダウンロードした設定ファイル(GetInformation.XML)をエディタ等で開きます。

【編集例】では無停電電源装置 UPS の<UPS>タグを編集について説明します。

【編集例】では「赤字」で以下の設定を変更しています。

設定(param)	設定内容	編集前(value)	編集後(value)
message	説明		編集しました
HighTransferVolt	許容電圧(上限)	108	110
HighTemp	バッテリー温度監視	45	40
LowBatteryRunTime	LowBattery 検出後の動作可能時間	120	180
ShutoffDelay	電源切断猶予時間	180	120

【編集例】

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ESMPRO>
  <ESMPRO.AC>
    <AMC_TREE>
      <root>
        <!--param タグ内の value を編集できます-->
        <param name="GuiAutoTimer" value="120" />
        .
        .
        中略
        .
        .
      <UPS>
        <!--param タグ内の value を編集できます-->
        <!--本タグは UPS_162 の情報です-->
        <param name="message" value="編集しました" />
        <param name="HighTransferVolt" value="110" />
        <param name="LowTransferVolt" value="92" />
        <param name="ConfigAlarm" value="1" />
        <param name="HighTemp" value="40" />
        <param name="LowTemp" value="0" />
        <param name="ConfigAlarmTimer" value="0" />
        <param name="MinReturnCapacity" value="0" />
        <param name="Sensitivity" value="4" />
        <param name="LowBatteryRunTime" value="180" />
        <param name="TestDiagnosticSchedule" value="2" />
        <param name="OutletControl" value="0" />
        <param name="PowerFailWatchTime" value="60" />
        <param name="AutoReturn" value="0" />
        <param name="AutoReturnSw" value="0" />
        <param name="WarmUpTime" value="0" />
        <param name="WarmUpNumber" value="1" />
        <param name="ShutoffDelay" value="120" />
        <param name="ReturnDelay" value="60" />
        <param name="MinReturnRuntime" value="0" />
        <!--id タグは編集しないでください-->
        <id>IDbc09d20cc65341fdb5bf91eb4bccd6d6</id>
      </UPS>
      以下略
      .
      .
    </AMC_TREE>
  </ESMPRO.AC>
</ESMPRO>
```


(3) 設定ファイルの適用(XML 読み込み)

ESMPRO/AC の[まとめて設定]の「設定ファイルの適用」は ESMPRO Platform Management Kit 中の「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド」「18.6 設定ファイルの適用」を参照してください。

ESMPRO

ESMPRO/ServerManagerについて ヘルプ クラシックモード Administrator

ダッシュボード 登録 装置 アラートビューア + 拡張機能 ツール 環境設定

まとめて設定

設定 ダウンロード

設定ファイル追加

設定ファイル名 **【必須】** UPS設定変更

メモ

入力ファイル **【必須】** GetInformation.XML

アップロード

OK キャンセル

ESMPRO

ESMPRO/ServerManagerについて ヘルプ クラシックモード Administrator

ダッシュボード 登録 装置 アラートビューア + 拡張機能 ツール 環境設定

まとめて設定

設定 ダウンロード

☐ 設定ファイル

メモ

追加

☒ UPS設定変更

メモ編集 適用 削除 保存

(4) 設定値が正しく登録されたことの確認

ESMPRO/AC の AC Management Console を起動してください。AMC ツリー設定変更を行った「UPS_162」のアイコンをダブルクリックまたはマウスの右ボタンメニュー「登録情報編集」で設定画面を出力します。

【設定変更後】

XML の修正内容が反映されていることを「電源装置」設定画面で確認してください

【設定変更前】

電源装置

×

電源装置管理情報

サーバの電源

冗長なし

SNMP設定情報の採取(S)

IP address

172 . 16 . 1 . 162

SNMP コミュニティ名

public

説明

電源異常

電源異常確認時間

60

Sec

Warm-UP 順位

Warm-UP 時間

0

Sec

電源異常回復時にリポートしない

電源異常回復時にリポートする (UPSによるリポート)

電源異常回復時にリポートする (制御端末からリポートする)

バッテリー温度監視

45

℃ 上限

0

℃ 下限

OK

キャンセル

UPS レポート

バッテリー交換日

冗長構成設定

iStorage連携

SNMP設定情報

名称

UPS_162

電源切断猶予時間

180

Sec

Disk保護時間

60

Sec

許容電圧(上限)

108

V

許容電圧(下限)

92

V

電源異常検出感度

(2:低 3:中 4:高)

4

異常発生時のブザータイミング

(1:電源障害 2:LowBattery 3:なし)

1

異常検出時のブザータイム

0

Sec

LowBattery検出後の動作可能時間

2

Min

自動バッテリーテストパターン

2

(2:隔週 3:毎週 4:起動時 5:なし 8:起動時、隔週 9:起動時、毎週)

情報の上書きをSNMPで実行(S)

コントロールコンセントグループの制御

コンセントグループ単位の制御を行わない

コンセントグループ単位の制御を行う

コンセントグループの設定

UPS型名

Smart-UPS 750

シリアル番号

AS1251115265

FW Rev.

UPS 09.6 (ID18)

復電reboot時の最低充電率

0

%

最小復帰ランタイム

0

Sec

5.2 イベントトリガーアクション

イベントトリガーアクションの利用方法として、以下の例について例示します。

例① ESMPRO/ServerManager が受信したアラートをメール通報する

例② ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを Microsoft Teams 通報する

**例③ ESMPRO/ServerManager に特定の装置から特定のアラートを受信した場合に、
任意のスクリプトを実行する**

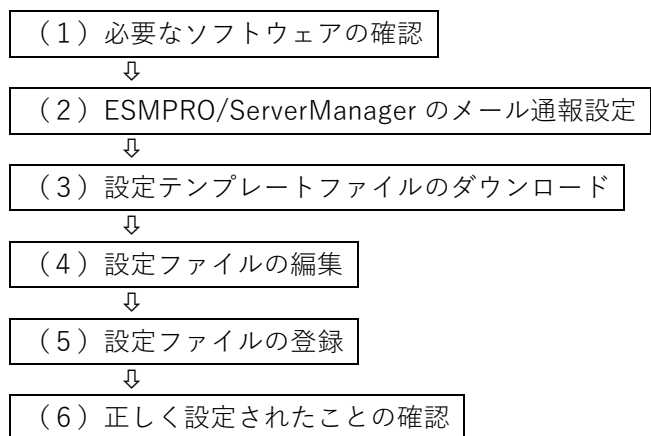
概要を以下に説明します。

5.2.1 例① ESMPRO/ServerManager が受信したアラートをメール通報する

ESMPRO/ServerManager が受信した重要度が異常のアラートをメール通報する

例として、NEC サイトで Web 公開されている本機能の設定ファイルの雛形として使用可能な設定テンプレートファイルを利用する場合の手順を説明します。

手順の流れは以下のとおりです。



(1) 必要なソフトウェアの確認

ESMPRO/ServerManager と同じ装置に WebSAM AlertManager Ver4.3 以降がインストールされているか確認します。WebSAM AlertManager のライセンスは必要ありません。

メール通報には、別途、SMTP プロトコルに対応するメールサーバが必要です。

（２）ESMPRO/ServerManager のメール通報設定

ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを、メールを使用して通報する場合に必要な設定を行います。

手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.2 メール通報設定」を参照してください。

（３）設定テンプレートファイルのダウンロード

例として、以下の NEC サイトから、異常イベントを抽出した設定テンプレートファイル（EvtTrigSet_異常イベント.csv）をダウンロードします。

【ESMPRO/ServerManager Ver.7】 イベントトリガーアクション 設定テンプレートファイル
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102743>

(4) 設定ファイルの編集

上記でダウンロードした設定テンプレートファイルを編集します。
通報するイベント毎に通報先のメールアドレスやサブジェクトを設定ファイルに記述します。

例として、各イベントのメール通報設定で以下の設定値を使用します。

項目名	設定値
メールアドレス(メール通報)	test@example.com
サブジェクト(メール通報)	メール通報テスト

設定項目は以下の順番に記述します。

ソース名, イベント ID, メールアドレス(メール通報), サブジェクト(メール通報), WebhookURL(Microsoft Teams 通報), サブジェクト(Microsoft Teams 通報)

設定ファイルの記載方法の詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.4 設定ファイルの編集」を参照してください。

【編集例】(赤字が更新箇所)

ESMFSService,C00403E8,test@example.com,メール通報テスト,,
ESMStorageService,C0040450,test@example.com,メール通報テスト,,
ESMNVMemonitor,C00403E9,test@example.com,メール通報テスト,,
...

(5) 設定ファイルの登録

編集した設定ファイルを ESMPRO/ServerManager へアップロードし、設定ファイルを登録します。

詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.5 設定ファイルの登録」を参照してください。

（６）正しく設定されたことの確認

設定ファイルの登録後、設定ファイルに記載されたイベントを ESMPRO/ServerManager が受信した場合、設定ファイルに記載したイベントに対応する通報先にメール通報が行われます。

ESMPRO/ServerAgent、または ESMPRO/ServerAgentService のイベントログ監視(Windows)や Syslog 監視(Linux)機能を使用して通報テストを行うことにより、メール通報機能について確認が行えます。

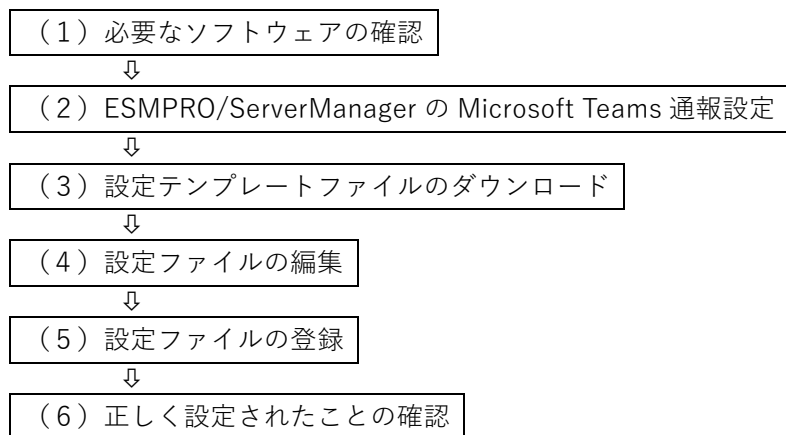
通報テストの詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド 付録 I ESMPRO/ServerAgent、または ESMPRO/ServerAgentService のイベントログ監視(Windows)や Syslog 監視(Linux)機能を使用して通報テストを実行する手順」を参照してください。

5.2.2 例② ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを Microsoft Teams 通報する

ESMPRO/ServerManager が受信した重要度が異常のアラートを Microsoft Teams 通報する

例として、NEC サイトで Web 公開されている本機能の設定ファイルの雛形として使用可能な設定テンプレートファイルを利用する場合の手順を説明します。

手順の流れは以下のとおりです。



(1) 必要なソフトウェアの確認

ESMPRO/ServerManager と同じ装置に WebSAM AlertManager Ver4.3 以降がインストールされているか確認します。WebSAM AlertManager のライセンスは必要ありません。

（２）ESMPRO/ServerManager の Microsoft Teams 通報設定

ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを、Microsoft Teams のチームのチャンネルへ通報する場合に必要な設定を行います。



手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.3 Microsoft Teams 通報設定」を参照してください。

（３）設定テンプレートファイルのダウンロード

以下の NEC サイトから、異常イベントを抽出した設定テンプレートファイル (EvtTrigSet_異常イベント.csv) をダウンロードします。

【ESMPRO/ServerManager Ver.7】 イベントトリガーアクション 設定テンプレートファイル
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102743>

(4) 設定ファイルの編集

上記でダウンロードした設定テンプレートファイルを編集します。

通報するイベント毎に連携する Microsoft Teams の Webhook URL やサブジェクトを設定ファイルに記述します。

Webhook URL については「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.7Microsoft Teams 受信 Webhook の作成と削除」を参照してください。

例として、各イベントの Microsoft Teams 通報設定で以下の設定値を使用します。

項目名	設定値
Webhook URL(Microsoft Teams 通報)	https://<Microsoft Teams の Webhook URL>
サブジェクト(Microsoft Teams 通報)	Teams 通報テスト

設定項目は以下の順番に記述します。

ソース名, イベント ID, メールアドレス(メール通報), サブジェクト(メール通報), WebhookURL(Microsoft Teams 通報), サブジェクト(Microsoft Teams 通報)

各項目や設定フォーマット等の詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.4 設定ファイルの編集」を参照してください。

【編集例】 (赤字が更新箇所)

ESMFSService,C00403E8,,,https://<Microsoft Teams の Webhook URL>,Teams 通報テスト
ESMStorageService,C0040450,,,https://<Microsoft Teams の Webhook URL>,Teams 通報テスト
ESMNVMemoMonitor,C00403E9,,,https://<Microsoft Teams の Webhook URL>,Teams 通報テスト
...

(5) 設定ファイルの登録

編集した設定ファイルを ESMPRO/ServerManager へアップロードし、設定ファイルを登録します。



詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 18 章 イベントトリガーアクションのセットアップ 18.5 設定ファイルの登録」を参照してください。

（６）設定値が正しく登録されたことの確認

設定ファイルの登録後、設定ファイルに記載されたイベントを ESMPRO/ServerManager が受信した場合、設定ファイルに記載したイベントに対応する通報先に Microsoft Teams 通報が行われます。

ESMPRO/ServerAgent、または ESMPRO/ServerAgentService のイベントログ監視(Windows)や Syslog 監視(Linux)機能を使用して通報テストを行うことにより、Microsoft Teams 通報機能について確認が行えます。通報テストの詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 セットアップガイド 付録 I ESMPRO/ServerAgent、または ESMPRO/ServerAgentService のイベントログ監視(Windows)や Syslog 監視(Linux)機能を使用して通報テストを実行する手順」を参照してください。

5.2.3 例③ ESMPRO/ServerManager に特定の監視対象サーバから、特定のアラートを受信した場合に、任意のスクリプトを実行する。

5.2.3.1 事前準備 OS 設定

リモートスクリプトを実行するには、OS 別に以下の準備が必要です。

■ 監視対象サーバの OS が Linux の場合

- 監視対象サーバに ESMPRO/ServerManager がインストールされた装置から SSH 接続が可能な状態であることを確認してください。
- SSH 接続ができない場合は、SSH サービスの有効化およびファイアウォール設定で SSH 接続を許可してください。

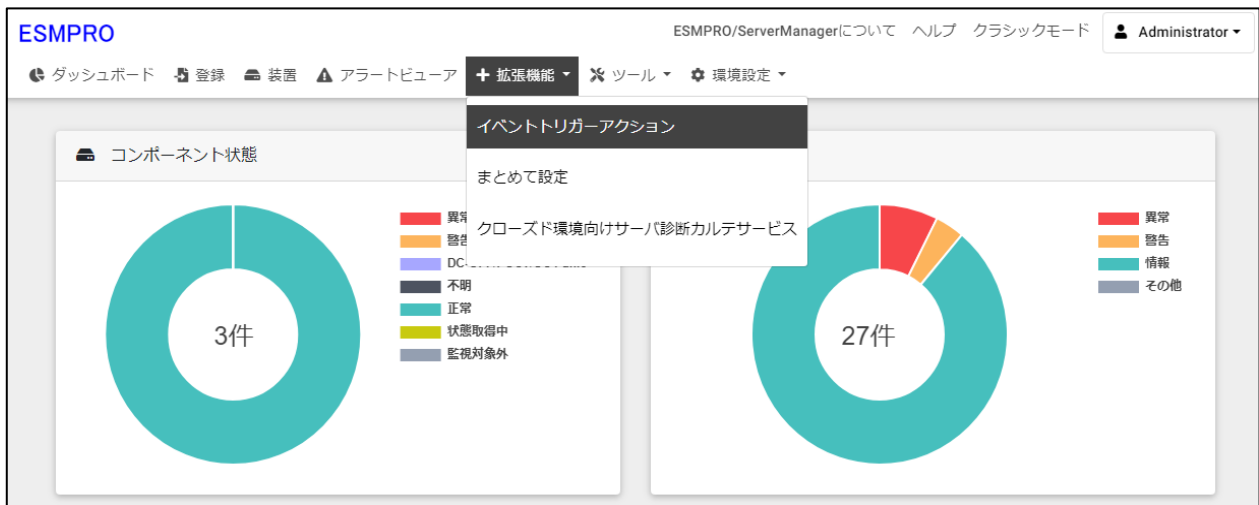
■ 監視対象サーバの OS が Windows の場合

- ESMPRO/ServerManager がインストールされた装置から監視対象サーバの WinRM サービスへの接続が可能な状態であることを確認してください。
- ESMPRO/ServerAgentService(Windows)がインストールされている場合、または Windows Server 2008 以降では WinRM サービスは自動的に起動します。
- Windows Server 2008 以前のバージョンでは、WinRM サービスを手動で起動してください。

- ・ コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、リスナーおよびアドレスを確認します。
`winrm enumerate winrm/config/listener`
- ・ 構成設定の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。
`winrm get winrm/config`
- ・ WS-Management プロトコルを有効化し、リモート管理のためのデフォルト構成を設定するには、管理者権限で以下のコマンドを実行してください。
`winrm quickconfig`
- ・ 「これらの変更を行いますか [y/n]?」と表示されたら「y」と入力し、構成が成功すると「WinRM has been updated for remote management.」と表示されます。

5.2.3.2 事前準備 監視対象サーバへのアクセス設定

- ① 「拡張機能」メニューから「イベントトリガーアクション」をクリックしてください。
WebSAMAlertManager Ver4.3 以降がインストールされていない、またはライセンス不足の場合は選択できません。



- ② 「通報基本設定」タブの「リモートスクリプト設定」タブをクリックしてください。



- ③ 監視対象サーバー一覧にある特定のアラートを受信時に、リモートスクリプト実行したい対象サーバ名称をクリックして、設定画面を表示してください

The screenshot shows the ESMPro web interface. At the top, there's a navigation bar with 'ESMPRO' on the left and 'ESMPR' on the right. Below it is a menu bar with items like 'ダッシュボード', '登録', '装置', 'アラートビューア', '拡張機能', 'ツール', and '設定'. The main content area is titled 'イベントトリガーアクション'. It has three tabs: '通報基本設定', '設定ファイル登録', and '現在の設定'. Under '現在の設定', there are three sub-tabs: 'メール通報', 'Microsoft Teams通報', and 'リモートスクリプト設定' (which is selected). Below these tabs, there's a section for 'リモートスクリプト管理' with radio buttons for '有効' (selected) and '無効', and an '適用' button. Below that is a table titled '監視対象サーバー一覧'. The table has five columns: '名称', 'IPアドレス', 'OSタイプ', '有効', and '認証方式'. The first row has the value 'Device1' in the '名称' column, which is circled in red. The other values in the row are '10.32.150.140', 'Unknown', 'Disabled', and 'カスタム認証'.

名称	IPアドレス	OSタイプ	有効	認証方式
Device1	10.32.150.140	Unknown	Disabled	カスタム認証

- ④ 「監視対象サーバ設定」画面で以下の項目を入力してください。

リモートスクリプト監視対象サーバ設定

監視対象サーバ設定

有効 **【必須】**

☒ 有効
☐ 無効

名称

Device1

IPアドレス

10.32.150.140

OSタイプ **【必須】**

OSタイプ選択

認証方式 **【必須】**

☐ 装置登録時認証情報利用
☒ カスタム認証

ログインテスト

ユーザ名 **【必須】**

パスワード **【必須】**

適用

イベントトリガー設定一覧

作成方法

設定ファイル登録

エクスポート

イベントソース

イベントID

スクリプト

データはありません。

0 件中 0 から 0 まで表示

前 次

戻る

項目名	設定値
有効 【必須】	監視対象サーバの有効／無効を指定します。 デフォルトは[無効]に設定されています。 有効を指定する場合は OS タイプ、認証方式、ユーザ名、パスワード、イベントトリガー設定一覧を表示する。
OS タイプ 【必須】	OS タイプには Windows または Linux を指定します。
認証方式 【必須】	この監視サーバの認証方式の装置登録時認証情報利用／カスタム認証を指定します。 装置登録時認証情報利用は、装置登録時に入力した OS のユーザ名とパスワードを用いてリモートスクリプトを実行します。 カスタム認証では、本設定画面で入力したユーザ名とパスワードを用いてリモートスクリプトを実行します。
ユーザ名 【必須】	カスタム認証の場合、リモートスクリプトを実行する管理者権限がある OS のユーザ名を入力してください。
パスワード 【必須】	カスタム認証の場合、上記ユーザ名に入力したアカウントのパスワードを入力してください。

- ⑤ スクリプトが正常に実行できるか確認するために、「監視対象サーバ設定」の「ログインテスト」ボタンをクリックして、ログインテストを行ってください。テストが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されますので、下表に示すエラーメッセージに基づいて設定や環境を見直してください。

監視対象サーバ設定

イベントトリガー設定一覧

有効【必須】

☒ 有効 ☐ 無効

名称

Device1

IPアドレス

10.32.150.140

OSタイプ【必須】

OSタイプ選択

認証方式【必須】

☐ 装置登録時認証情報利用 ☒ カスタム認証

ユーザ名【必須】

パスワード【必須】

ログインテスト

適用

項番	エラーメッセージ	対応方法
1	Cannot connect to the remote server	監視対象サーバと通信が可能な状態か確認してください。
2	Invalid Username or Password.	ユーザ名またはパスワードが正しいか確認してください。

エラーが出ずに、アクセスできた場合、事前準備は完了です。

5.2.3.3 実行スクリプトファイルの作成

特定のイベントを受信した際に、監視対象サーバ上で実行させたい内容を記載した「実行スクリプトファイル」の作成方法について記載します。

「実行スクリプトファイル」は、下表の実行対象の OS に合わせて作成してください。

OS タイプ	スクリプトタイプ
Windows	PowerShell
Linux	sh/bash/csh など、対象 Linux 環境で動作可能なスクリプト言語

Windows 向け 実行スクリプトの作成方法

Windows 向けリモート実行スクリプトファイルは下表に従って作成してください。

フォーマット	PowerShell Script file
ファイル名	任意
拡張子	.ps1
文字コード	UTF-8

スクリプト呼び出し時に設定される変数は以下の通りです。

変数名	設定値
\$env:EVENTID__	発生したイベントの ID
\$env:EVENTSOURCE__	発生したイベントのソース
\$env:EVENTSERVERIP__	発生したイベントのサーバ IP アドレス
\$env:EVENTSERVERNAME__	発生したイベントのサーバ名
\$env:MESSAGE__	発生したイベントのメッセージ
\$env:SEVERITY__	発生したイベントの重要度 4: Error 3: Warning 2: Info 1: Unknown
\$env:DETAIL__	発生したイベントの詳細
\$env:DEAL__	発生したイベントの対処
\$env:DATE__	発生したイベントの受信時間

Linux 向け 実行スクリプトの作成方法

Linux 向けリモート実行スクリプトファイルは下表に従って作成してください。

フォーマット	Scripting language command file
ファイル名	任意
拡張子	.sh
文字コード	UTF-8

スクリプト呼び出し時に設定される変数は以下の通りです。

変数名	設定値
EVENTID__	発生したイベントの ID
EVENTSOURCE__	発生したイベントのソース
EVENTSERVERIP__	発生したイベントのサーバ IP アドレス
EVENTSERVERNAME__	発生したイベントのサーバ名
MESSAGE__	発生したイベントのメッセージ
SEVERITY__	発生したイベントの重要度 4: Error 3: Warning 2: Info 1: Unknown
DETAIL__	発生したイベントの詳細
DEAL__	発生したイベントの対処
DATE__	発生したイベントの受信時間

記述例(Windows)

発生したイベントの重要度で処理を分岐する例を示します。

```
# ホスト名を取得
$hostname = [System.Net.Dns]::GetHostName()

# IP アドレスを取得 (IPv4 のみ)
$ipAddresses = [System.Net.Dns]::GetHostAddresses($hostname) | Where-Object { $_.AddressFamily -eq 'Inter
Network' }

# Severity を参照
# 重要度を参照して、処理を分岐
switch ($env:SEVERITY__) {
    "4" { $action = "Error" }
    "3" { $action = "Warning" }
    "2" { $action = "Info" }
    default { $action = "Unknown" }
}

# 結果を格納するハッシュテーブルを作成
$result = @{
    "装置名:" = $hostname
    "IP アドレス" = $ipAddresses
    "イベント ID:" = $env:EVENTID__
    "イベントソース:" = $env:EVENTSOURCE__
    "イベントサーバ IP アドレス:" = $env:EVENTSERVERIP__
    "イベントサーバ名:" = $env:EVENTSERVERNAME__
    "メッセージ:" = $env:MESSAGE__
    "重要度:" = $env:SEVERITY__
    "詳細:" = $env:DETAIL__
    "対処:" = $env:DEAL__
    "受信時間:" = $env:DATE__
    "アクション" = $action
}

return [PSCustomObject]$result
```

下記は、「イベント ID:C0040005 を受信した際に、メモ帳を起動する」例です。

```
<#
本サンプルは C0040005 を受信した際に、メモ帳を起動する。
$env:EVENTID__          発生したイベントの ID
#>

Set-StrictMode -Version Latest
$ErrorActionPreference = 'Stop'

# =====
# 設定（任意で変更）
# =====
$TargetEventId = 'C0040005'
$ExePath = "$env:WINDIR\System32\notepad.exe"  # テスト用: メモ帳
$ExeArgs = @()                                # 例: @('--eventId', $env:EVENTID__)

# =====
# 受信イベント情報（環境変数）
# =====
$eventId = [string]$env:EVENTID__
if ($null -eq $eventId) { $eventId = "" }
$eventId = $eventId.Trim()

# =====
# 本題: 特定イベント ID で EXE 起動
# =====
if ($eventId -eq $TargetEventId) {
    if (-not (Test-Path -LiteralPath $ExePath)) {
        throw "Exe not found: $ExePath"
    }

    # EXE を別プロセスとして起動（待機しない）
    # ※PowerShell 5.1 では -ArgumentList に空配列/null 要素があるとエラーになるため条件付けする
    $sanitizedArgs = @()
    if ($ExeArgs -ne $null) {
        $sanitizedArgs = @($ExeArgs | Where-Object { $_ -ne $null -and [string]$_ -ne "" })
    }

    if ($sanitizedArgs.Count -gt 0) {
        Start-Process -FilePath $ExePath -ArgumentList $sanitizedArgs | Out-Null
    } else {
        Start-Process -FilePath $ExePath | Out-Null
    }
}

exit 0
```

記述例(Linux)

発生したイベントの重要度で処理を分岐する例を示します。

```
#!/bin/bash

echo "イベント ID: $EVENTID__"
echo "イベントソース: $EVENTSOURCE__"
echo "イベントサーバ IP アドレス: $EVENTSERVERIP__"
echo "イベントサーバ名: $EVENTSERVERNAME__"
echo "メッセージ: $MESSAGE__"
echo "重要度: $SEVERITY__"
echo "詳細: $DETAIL__"
echo "対処: $DEAL__"
echo "受信時間: $DATE__"

# action の初期化
action=""

# SEVERITY__ の値に応じて action を設定
# Severity を参照
# 重要度を参照して、処理を分岐
case "$SEVERITY__" in
    "4")
        action="Error"
        ;;
    "3")
        action="Warning"
        ;;
    "2")
        action="Info"
        ;;
    *)
        action="Unknown"
        ;;
esac

# action を表示
echo "action: $action"
```

5.2.3.4 リモートスクリプト設定ファイルの作成

イベントトリガーアクションの「リモートスクリプト設定ファイル」の作成方法について説明します。

「リモートスクリプト設定ファイル」は、発生するイベントと実行するスクリプトを紐付けるための設定ファイルです。このファイルを ESMPRO/ServerManager に読み込ませることで、特定のイベント発生時に、指定したスクリプトを自動的に実行できます。

リモートスクリプト設定ファイル定義

リモート設定ファイルは以下の表に従って記述してください。

フォーマット	CSV (Comma Separated Value)
ファイル名	任意
区切り文字	, (カンマ)
拡張子	.csv
文字コード	UTF-8

リモートスクリプト設定ファイルの作成方法

リモートスクリプトを実行するイベントごとに各行、下表に従って

「ソース名, イベント ID, 実行スクリプトファイルパス」のフォーマットで記載してください。

項目名	設定値
ソース名 [必須]	イベントのソース名を指定します。ESMPRO/ServerManager に通知される任意のソース名で文字数は半角 255 文字まで指定できます。本項目の入力を省略することはできません。¥(バックスラッシュ)は使用できません。
イベント ID [必須]	イベント ID を指定します (半角 8 文字/16 進数表記)。 例: C0040005 本項目の入力を省略することはできません。 (Qualifiers 半角 4 文字/16 進数と EventID 半角 4 文字/16 進数を組み合わせた半角 8 文字/16 進数のイベント ID) Qualifiers と EventID は OS のイベントビューアの詳細タブで確認可能です。 ・「表示」の場合 - System - Provider - EventID xxxxx [Qualifiers] yyyyy ・「XML で表示」の場合 - <Event> - <System> <EventID Qualifiers="yyyyy">xxxx</EventID> xxxxx←イベント ID yyyyy←Qualifiers 例: Qualifiers yyyyy が 49152(10 進数) = C000(16 進数)、イベント ID xxxxx が 100(10 進数) = 0064(16 進数)の場合、半角 8 文字/16 進数では、C0000064 となります。 Qualifiers が表示されていない場合、Qualifiers は 0000(16 進数) となります。

実行スクリプトファイルパス [必須]	実行スクリプトファイルのパスの場所
-----------------------	-------------------

.....
ヒント:

- Express サーバ関連のソース名およびイベント ID は以下をご参照ください。
<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>
 - NEC iLO IML/SNMP Trap 一覧および MIB ファイル (Express サーバ)
 - EXPRESSSCOPE エンジン(BMC) SNMP 通報一覧および MIB ファイル (Express サーバ)
 - RAID システム管理ガイド
 - ESMPRO アラート一覧(Ver2)
 - ESMPRO アラート一覧(Ver1)
 - ESMPRO/AutomaticRunningController 関連のソース名およびイベント ID は以下をご参照ください。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_download.html
 - イベントログ一覧(Windows)
 - WebSAM iStorageManager 関連のソース名およびイベント ID は以下をご参照ください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102434>
 - IS010 iStorage ソフトウェア iStorageManager メッセージハンドブック
 - ネットワーク機器関連のソース名およびイベント ID は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストールガイド」の「■UNIVERGE IX シリーズ、UNIVERGE QX シリーズを管理している場合」に記載しているアラート定義ファイルをご参照ください。
 - iStorageV シリーズ関連のソース名およびイベント ID は「iStorage V シリーズ ESMPRO 連携ユーザガイド」の「アラート一覧画面」に記載している「表 1-5 アラート一覧画面の表示内容」および「表 1-6 アラート一覧」をご参照ください。
-

記述例

以下の記述例を参考に記述してください。

```
Microsoft-Windows-DistributedCOM,C0040001,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script.ps1
Microsoft-Windows-DistributedCOM,80050031,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script2.ps1
Microsoft-Windows-WindowsUpdateClient,40000019,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script.ps1
Microsoft-Windows-WindowsUpdateClient,00000023,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script2.ps1
Microsoft-Windows-DNS ClientEvents,00008013,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script.ps1
Microsoft-Windows-DNS ClientEvents,00008051,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%script2.ps1
Microsoft-Windows-DistributedCOM,C0040001,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script.sh
Microsoft-Windows-DistributedCOM,80050031,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script2.sh
Microsoft-Windows-WindowsUpdateClient,40000019,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script.sh
Microsoft-Windows-WindowsUpdateClient,00000023,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script2.sh
Microsoft-Windows-DNS ClientEvents,00008013,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script.sh
Microsoft-Windows-DNS ClientEvents,00008051,C:%Projects%ESMPRO%event_trigger%linux_script2.sh
```

5.2.3.5 監視対象サーバへのイベントトリガー設定

- ① 「イベントトリガー設定一覧」の「設定ファイル登録」ボタンをクリックして5.2.3.4章で作成した特定のイベント ID と、実行するスクリプトを紐づけした設定ファイルである「リモートスクリプト設定ファイル」を選択して、登録を実行してください。

リモートスクリプト監視対象サーバ設定

監視対象サーバ設定

有効【必須】 ☒ 有効 ☐ 無効

名称 Device1

IPアドレス 10.32.150.140

OSタイプ【必須】 OSタイプ選択

認証方式【必須】 ☐ 装置登録時認証情報利用 ☒ カスタム認証 ログインテスト

ユーザ名【必須】

パスワード【必須】

適用

イベントトリガー設定一覧 作成方法 設定ファイル登録 エクスポート

イベントソース	イベントID	スクリプト
データはありません。		

0件中0から0まで表示 前 次

戻る

これで、ESMPRO/ServerManager に特定の監視対象サーバから、特定のアラートを受信した場合に、任意のスクリプトを実行する設定が完了です。

5.3 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス

クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスの利用方法として、以下の例について例示します。

例① 1か月分のサーバ診断カルテを作成する

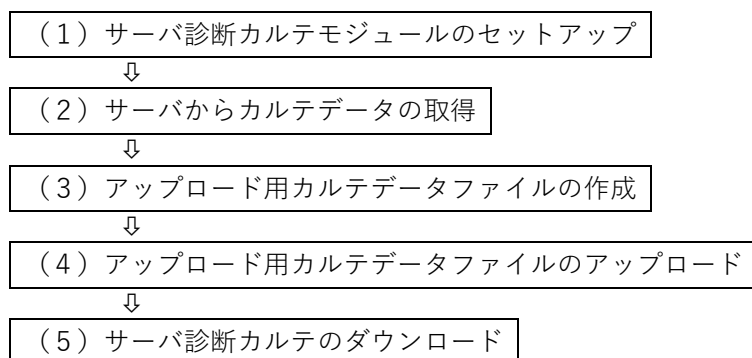
概要を以下に説明します。

5.3.1 例① 1か月分のサーバ診断カルテを作成する

インターネットに非接続の管理対象サーバ（Windows）1 台の 1 か月分のサーバ診断カルテを作成する

例として管理対象サーバ（Windows）及び管理サーバがインターネットに非接続かつ、エクスプレス通報サービスを開局していない環境でサーバ診断カルテを作成する手順を説明します。

手順の流れは以下のとおりです。



5.3.1.1 (1) サーバ診断カルテモジュールのセットアップ

管理対象サーバ（Windows）に対してクローズド環境向けサーバ診断カルテサービスを使用するには、サーバ診断カルテモジュールをインストールしているサーバが以下の条件を満たす必要があります。

- ・ NEC ログ収集サービスがインストールされている
- ・ サーバ診断カルテモジュールの利用許諾に同意している
- ・ 管理対象サーバで NEC ログ通報サービス（NEC Log Reporting Service）が起動していない

本作業は以下の手順で行います。

1) NEC ログ収集サービスのインストール

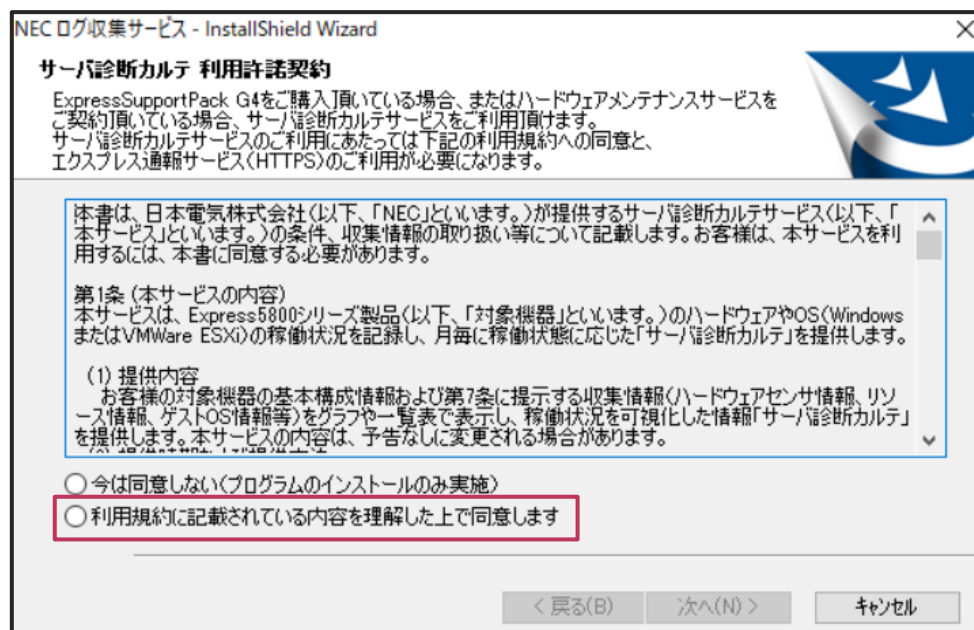
「サーバ診断カルテ 利用許諾契約」に同意するため、サーバ診断カルテモジュールが既にインストールされている場合は、サーバ診断カルテモジュールをアンインストール後、再インストールを行います。

「サーバ診断カルテ（Windows 対応版）」及びセットアップガイドは以下サイトからダウンロードできます。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

2) 「サーバ診断カルテ 利用許諾契約」に同意

サーバ診断カルテモジュールのインストール時に「サーバ診断カルテ 利用許諾契約」に同意します。

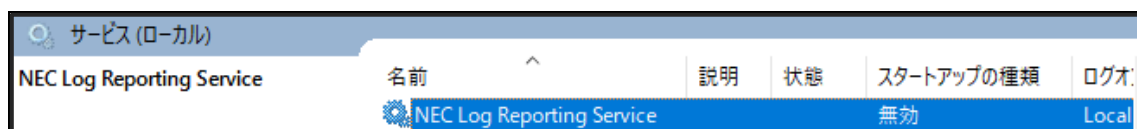


3) NEC ログ通報サービスの停止

サーバ診断カルテモジュールをインストール後、「コントロールパネル」の「管理ツール」より「サービス」をクリックします。

以下のサービスを停止し、スタートアップの種類を手動または無効に設定します。

[NEC ログ通報サービス (NEC Log Reporting Service)]



手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.2.1 サーバ診断カルテモジュールのセットアップ」を参照してください。

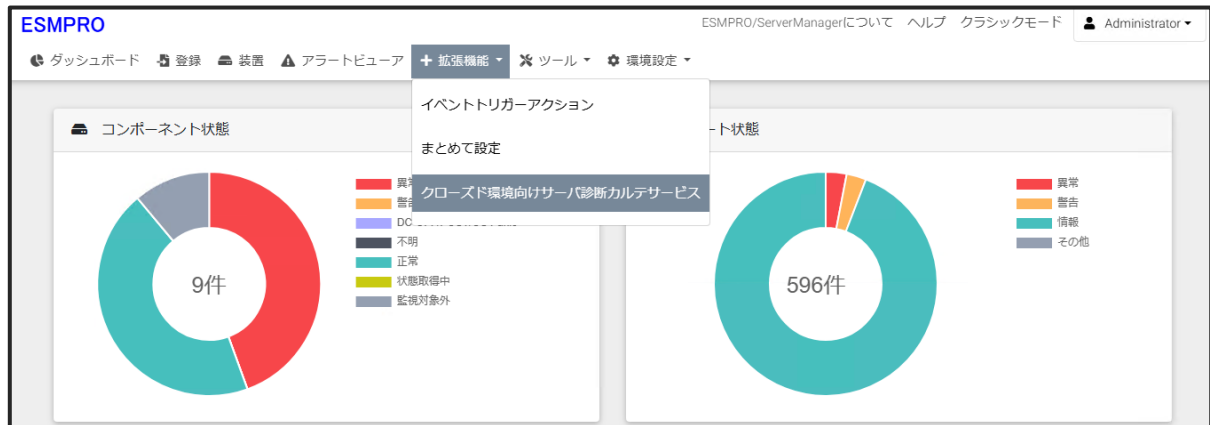
5.3.1.2 (2) サーバからカルテデータの取得

サーバからカルテデータ（サーバのログ）を取得し、ESMPRO/ServerManager 上に蓄積させます。
以下の手順で操作を行います。

1) 共通設定

カルテデータの保存に関する設定、アップロード用カルテデータファイルに関する設定を行います。

ESMPRO/ServerManager にログインし、「拡張機能」>「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」をクリックします。



「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」画面から「設定」ボタンをクリックします。



各設定値を入力し、「適用」ボタンをクリックします。
例として以下の設定を適用します。

共通設定

カルテデータ保存設定

カルテデータ保存期間 【必須】

0 日

保存期間については7～120日の間で指定可能です。
0日を指定するとカルテデータは自動削除されません。

カルテデータの保存先 【必須】

C:\Program Files (x86)\ESMPRO\ESMSM\KarteData

アップロード用カルテデータファイルの作成設定

PP・サポートサービスのサポートID 【必須】

サーバ診断カルテファイル用パスワード 【必須】

メインメールアドレス 【必須】

通知用メールアドレス

編集

削除

追加

キャンセル

適用

項目名	説明
カルテデータ保存期間	ESMPRO/ServerManager で保存するカルテデータの保存期間を入力 (保存期間は 0 日または 7～120 日の間で指定可能)
カルテデータの保存先	ESMPRO/ServerManager で保存するカルテデータの保存先を入力 既定値： <ESMPRO/ServerManager インストール先>%ESMSM%KarteData
PP・サポートサービスのサポート ID	ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンスまたは ESMPRO/ServerManager 拡張機能 ノードライセンスのサポート契約が含まれる サポート ID を入力
サーバ診断カルテファイル用パスワード	アップロード用カルテデータファイルを元に作成されるサーバ診断カルテファイル (ZIP 形式) を解凍するためのパスワードを入力
メインメールアドレス	アップロード用カルテデータファイルのアップロード URL および、作成された サーバ診断カルテファイル (ZIP 形式) のダウンロード URL を通知するメール アドレスを入力 ※複数登録は不可
通知用メールアドレス	作成されたサーバ診断カルテファイル (ZIP 形式) のダウンロード URL を通知 するメールアドレスを入力 ※最大 5 つまで登録可能

手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ
診断カルテサービスのセットアップ 20.2.8 共通設定」を参照してください。

2) サーバの登録

ESMPRO/ServerManager に登録済みのサーバを、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスの使用対象として登録します。

「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」画面から「サーバ登録」をクリックします。



カルテ作成向けのデータを蓄積するサーバを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



希望の取得スケジュールを設定し、「登録」をクリックします。



登録のメッセージが表示され、登録サーバー一覧にコンポーネントが表示されたら登録完了です。



手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.2.6 サーバの登録」を参照してください。

3) カルテデータの取得を開始

カルテデータの取得を開始し、NEC ログ収集サービスが収集したサーバのログを ESMPRO/ServerManager 内にカルテデータとして保存します。

「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」画面からサーバを選択して「取得開始」ボタンをクリックします。



カルテデータの取得を開始すると「取得状況」に「取得開始」が表示されます。



手順の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第20章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.2.11 カルテデータの取得を開始/停止する」を参照してください。

カルテデータの取得状況は、「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」画面でサーバをクリックすると表示される「サーバの詳細」画面で確認できます。

Server1の詳細

カルテデータ取得設定

カルテデータの取得スケジュール 毎週日曜日

カルテデータの取得時刻 23:00

設定変更

カルテデータ

カルテデータ削除

開始日	終了日	サイズ
2024/07/14	2024/07/21	4.392MB
2024/07/07	2024/07/14	4.463MB
2024/06/30	2024/07/07	4.367MB
2024/06/23	2024/06/30	4.407MB
2024/06/16	2024/06/23	4.421MB

ログ収集状況： 収集開始

開始

停止

一覧に戻る

カルテデータの取得スケジュール経過後に、カルテデータ欄にカルテデータが表示されていることを確認します。

サーバの詳細画面の詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第20章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.2.12 サーバの詳細」を参照してください。

※本画面でカルテデータが表示されない場合、またはカルテ作成対象期間のカルテデータが表示されない場合はサーバ診断カルテの作成はできません。

5.3.1.3 (3) アップロード用カルテデータファイルの作成

カルテデータの取得後に、NEC サイト（クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイト）にアップロードするアップロード用カルテデータファイルの作成を行います。

「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス」画面からサーバを選択して、「アップロード用カルテデータファイル作成」ボタンをクリックします。



「アップロード用カルテデータファイルの作成」画面で各設定を入力し、「作成」ボタンをクリックします。
※共通設定で設定済みの項目は本画面を開いた際に自動で入力されます。

例として、6/1～6/30 の期間のカルテを作成する設定を入力します。

アップロード用カルテデータファイルの作成

アップロード用カルテデータファイルの作成設定

PP・サポートサービスのサポートID **【必須】**

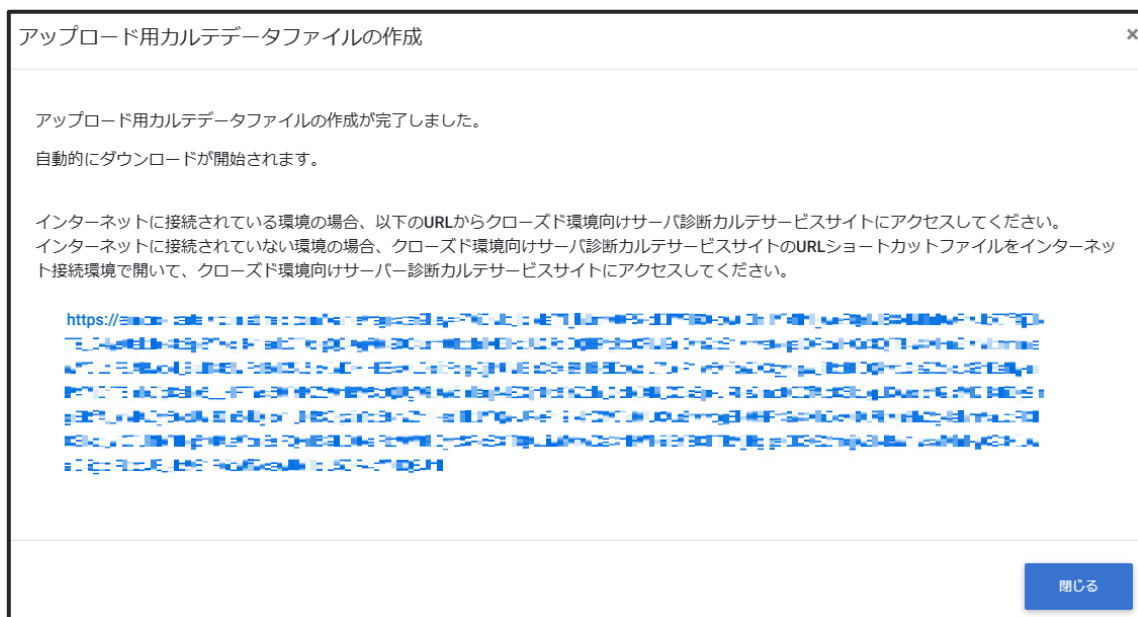
サーバ診断カルテファイル用パスワード **【必須】**

メインメールアドレス **【必須】**

通知用メールアドレス

カルテ作成対象期間 **【必須】**

作成が完了すると完了画面が表示され、ESMPRO/ServerManager を操作している端末にアップロード用カルテデータファイルおよび、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトの URL ショートカットファイルがダウンロードされます。



ダウンロード先フォルダを開き、「アップロード用カルテデータファイル」と「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトの URL ショートカットファイル」の 2 点が格納されていることを確認します



※アップロード用カルテデータファイルおよび URL ショートカットファイルのファイル命名規則は以下のとおりです。

[アップロード用カルテデータファイル]

<ESMPRO/ServerManager が生成する GUID>_<YYYYMMDDHHSS>.zip

[URL ショートカットファイル]

<ESMPRO/ServerManager が生成する GUID>_<YYYYMMDDHHSS>.url

※この 2 点のファイルはセットで取り扱う必要があります。

詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.2.13 アップロード用カルテデータファイルの作成」を参照してください。

5.3.1.4 (4) アップロード用カルテデータファイルのアップロード

「アップロード用カルテデータファイル」をクローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトにアップロードします。

「アップロード用カルテデータファイル」と「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトの URL ショートカットファイル」をインターネット接続可能な端末にコピーし、「クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトの URL ショートカットファイル」を起動します。

「ユーザーが人間であることを確認する」が表示されたら、「開始」ボタンをクリックし、セキュリティパズルを解いてください。



※画像は一例です。

セキュリティパズル成功後、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス 利用規約画面に遷移します。利用規約を確認し「同意する」ボタンをクリックします。



5.3.1.3(3) アップロード用カルテデータファイルの作成で指定したメインメールアドレスが表示されます。メールアドレスが正しいことを確認し、「アップロード URL 送信」ボタンをクリックします。メインメールアドレス宛にアップロード URL が送信されます。

NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス

1 同意 2 メール検証 3 アップロード 4 カルテ作成待ち 5 ダウンロード

アップロードURLを記載したメールを
ESMPRO/ServerManagerで設定したメインメールアドレス()
へ送信します。

よろしければ「アップロードURL送信」ボタンをクリックしてください。
送信を中止する場合は「中止する」ボタンをクリックしてください。

中止する アップロードURL送信

NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス

1 同意 2 メール検証 3 アップロード 4 カルテ作成待ち 5 ダウンロード

アップロードURLを記載したメールが
メインメールアドレス()に送信されます。
メールをご確認ください。

メールが届かない場合は、
ESMPRO/ServerManagerで設定したメインメールアドレスが
間違っている場合があります。
ESMPRO/ServerManagerの設定をご確認ください。

アップロード用 URL 通知のメールが届いたら、「アップロード用カルテデータファイルアップロード先リンク」をクリックし、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトにアクセスします。

[NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス] アップロード用URL通知

NS noreply@mail.karte.esmpro-service.com
宛先: ()

このメールはNEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスから自動で送信されています。

ID: ()

以下のリンクよりアップロード用カルテデータファイルをアップロードしてください。
[アップロード用カルテデータファイルアップロード先リンク](#)

※このURLはお客様に関連付けられているため、お手元で保管いただくようお願いいたします。
転送や第三者への共有は避けてください。

※このメールは送信専用アドレスからお送りしています。
ご返信いただいても回答はできませんので、あらかじめご了承ください。

※もしお心当たりのない場合、本メールは破棄して頂けるようお願いいたします。

※アップロード URL メールは、
from メールアドレス: noreply@mail.karte.esmpro-service.com
subject: [NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス] アップロード用 URL 通知
で送信されます。

ファイル選択で「アップロード用カルテデータファイル」を指定しアップロードします。

NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス

1 同意 2 メール検証 3 アップロード 4 カルテ作成待ち 5 ダウンロード

クリップアイコンをクリックしてアップロード用カルテデータファイルを指定してください。
次に、「アップロード」ボタンをクリックして、アップロードしてください。

📎 ファイル選択

アップロード 0%

ファイル選択
📎 b1757873-3bf3-428e-8fd8-b4dada43ab18_20240726151125.zip

アップロードが完了するとサーバ診断カルテの作成が開始されます。通常、24 時間以内に作成完了します。
また、メインメールアドレスに受付完了のメールが送信されます。

NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス

1 同意 2 メール検証 3 アップロード 4 カルテ作成待ち 5 ダウンロード

カルテ作成開始しました。
カルテ作成後、ESMPRO/ServerManagerで設定した
メインメールアドレスと通知用メールアドレスに完了メールが届きます。

完了メールが届くまでお待ちください。
通常、カルテの作成は24時間以内に完了します。

[NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス] アップロード用カルテデータファイル 受付通知

NS noreply@mail.karte.esmpro-service.com 宛先 [redacted]

このメールはNEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスから自動で送信されています。

ID: [redacted]

アップロード用カルテデータファイルを受け付けました。
サーバ診断カルテファイルの作成が完了すると、作成完了のお知らせが通知されます。
通常、サーバ診断カルテの作成は24時間以内に完了します。

※このメールは送信専用アドレスからお送りしています。
ご返信いただいても回答はできませんので、あらかじめご了承ください。

※もしお心当たりのない場合、本メールは破棄して頂けるようお願いいたします。

※受付完了メールは、

from メールアドレス: noreplay@mail.karte.esmpro-service.com

subject: [NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス] アップロード用カルテデータファイル 受付通知
で送信されます。

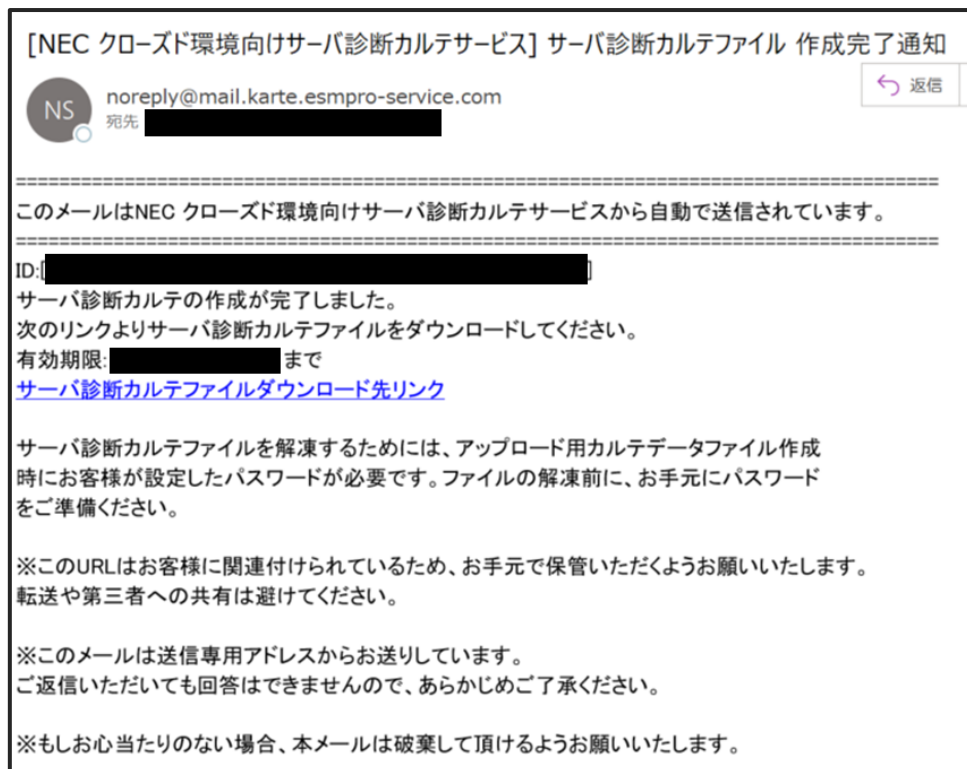
詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.3 サーバ診断カルテ作成の流れ」を参照してください。

5.3.1.5 (5) サーバ診断カルテのダウンロード

クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトにより作成されたサーバ診断カルテをダウンロードします。

サーバ診断カルテの作成が完了すると、5.3.1.3 (3) アップロード用カルテデータファイルの作成で指定したメインメールアドレスと通知用メールアドレスにサーバ診断カルテのダウンロード先リンクが記載されたメールが送付されます。

メールの「サーバ診断カルテファイルダウンロード先リンク」をクリックし、クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスサイトにアクセスします。

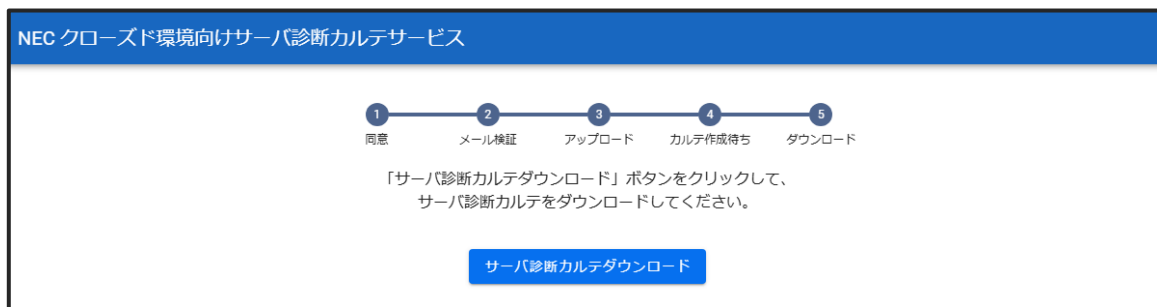


※作成完了メールは、

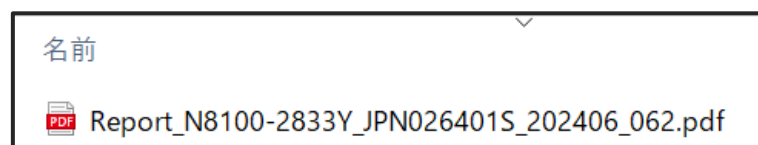
from メールアドレス: noreply@mail.karte.esmpro-service.com

subject: [NEC クローズド環境向けサーバ診断カルテサービス] サーバ診断カルテファイル 作成完了通知
で送信されます。

「サーバ診断カルテダウンロード」ボタンをクリックしサーバ診断カルテをダウンロードします。



ダウンロードしたファイルを、5.3.1.3（3）アップロード用カルテデータファイルの作成で指定したサーバ診断カルテファイル用パスワードで解凍し、サーバ診断カルテを確認します。



Orchestrating a brighter world

NEC

'24/ 6

サーバ診断カルテ

モデル : Express5800/R110j-1
型番 : N8100-2833Y
号機番号 : JPN026401S

作成日時 : 2024/07/04 14:21:06

1. 診断結果

1) 総合診断結果

ハードウェア診断結果

リソース診断結果

✓

正常

i

要観察(予兆)

2) ハードウェア診断結果

✓

サーバは正常に稼働しています。

✓

温度

温度センサの値は正常な範囲内です。

※表示は一例です

詳細は、「ESMPRO/ServerManager Ver. 7 セットアップガイド 第 20 章 クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスのセットアップ 20.3.5 サーバ診断カルテのダウンロード」を参照してください。

6. 便利な使い方

（１）設定テンプレートファイルの活用

[まとめて設定]機能、イベントトリガーアクション機能の設定ファイルの雛型として使用可能な設定テンプレートファイルを各種ご用意しています。以下の NEC サイトからダウンロードできますので設定ファイルの編集時にご利用ください。

【ESMPRO/ServerManager Ver.7】 まとめて設定 設定テンプレートファイル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102744>

【ESMPRO/ServerManager Ver.7】 イベントトリガーアクション 設定テンプレートファイル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102743>

7. 改版履歴

版数	発行日	改版内容
第 1 版	2024 年 3 月 13 日	初版発行
第 2 版	2024 年 8 月 16 日	クローズド環境向けサーバ診断カルテサービスの説明を追加
第 3 版	2026 年 1 月 19 日	イベントトリガーアクションに、任意スクリプト実行の説明を追加

(c) 2026 NEC Corporation